

Virtual Partition Manager

ユーザガイド

Hitachi Virtual Storage Platform G1000, G1500

Hitachi Virtual Storage Platform F1500

Storage Navigator を使ってストレージシステムを操作する場合は、必ずこのマニュアルを読み、操作手順、および指示事項をよく理解してから操作してください。また、このマニュアルをいつでも利用できるよう、Storage Navigator を使用するコンピュータの近くに保管してください。

著作権

All Rights Reserved, Copyright (C) 2014, 2021, Hitachi, Ltd.

免責事項

このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製することはできません。

このマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。

このマニュアルに基づいてソフトウェアを操作した結果、たとえ当該ソフトウェアがインストールされているお客様所有のコンピュータに何らかの障害が発生しても、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。このマニュアルの当該ソフトウェアご購入後のサポートサービスに関する詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。

商標類

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

発行

2021年7月（第9版）

目次

はじめに.....	5
対象ストレージシステム.....	6
マニュアルの参照と適合プログラムバージョン.....	6
対象読者.....	6
マニュアルで使用する記号について.....	6
マニュアルに掲載されている画面図について.....	7
変更履歴.....	7
1.Virtual Partition Manager の概要.....	9
1.1 キャッシュ分割機能.....	10
2.Virtual Partition Manager の操作の準備.....	13
2.1 CLPR 作成時のキャッシュ容量基準.....	14
2.1.1 Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、active flash for mainframe、Cache Residency Manager、Compatible XRC を適用しない場合.....	14
2.1.2 Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、または active flash for mainframe を適用する場合.....	15
(1) 容量削減機能が有効な仮想ボリュームを使用する場合の推奨キャッシュ容量.....	16
2.1.3 Cache Residency Manager を適用する場合.....	17
2.1.4 Compatible XRC を適用する場合.....	17
2.1.5 Universal Volume Manager だけを適用する場合.....	17
2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項.....	18
2.3 ストレージシステムに予約されている CLPR 名.....	19
3.Virtual Partition Manager の操作.....	21
3.1 Virtual Partition Manager 操作の流れ.....	22
3.2 CLPR を作成する.....	22
3.3 CLPR 内のリソースを移動する.....	23
3.4 CLPR の設定を編集する.....	24
3.5 CLPR を削除する.....	25

4.Virtual Partition Manager のトラブルシューティング.....	27
4.1 Virtual Partition Manager のエラーと対策.....	28
4.2 お問い合わせ先.....	28
付録 A Virtual Partition Manager GUI リファレンス.....	29
A.1 [キャッシュパーティション] 画面.....	30
A.2 個別の CLPR 画面.....	32
A.3 CLPR 作成ウィザード.....	34
A.3.1 [CLPR 作成] 画面.....	34
A.3.2 [設定確認] 画面.....	36
A.4 CLPR リソース移動ウィザード.....	37
A.4.1 [CLPR リソース移動] 画面.....	38
A.4.2 [設定確認] 画面.....	40
A.5 CLPR 編集ウィザード.....	40
A.5.1 [CLPR 編集] 画面.....	41
A.5.2 [設定確認] 画面.....	42
A.6 [設定変更] 画面.....	43
A.7 [CLPR プロパティ] 画面.....	44
A.8 [CLPR 削除] 画面.....	46
付録 B このマニュアルの参考情報.....	49
B.1 操作対象リソースについて.....	50
B.2 マニュアルで使用する用語について.....	50
B.3 このマニュアルでの表記.....	50
B.4 このマニュアルで使用している略語.....	50
B.5 KB (キロバイト) などの単位表記について.....	51
用語解説.....	53
索引.....	71



はじめに

このマニュアルは、Hitachi Virtual Storage Platform G1000, G1500（以下、VSP G1000 および G1500 と略します）用の『Virtual Partition Manager ユーザガイド』です。このマニュアルでは、Virtual Partition Manager の概要と操作について説明しています。

- 対象ストレージシステム
- マニュアルの参照と適合プログラムバージョン
- 対象読者
- マニュアルで使用する記号について
- マニュアルに掲載されている画面図について
- 変更履歴

対象ストレージシステム

このマニュアルでは、次に示す VSP G1000 および G1500 のストレージシステムに対応する製品（プログラムプロダクト）を対象として記述しています。

- VSP G1000
A-65AD
H-65AD
- VSP G1500
A-65AE
H-65AE

このマニュアルでは特に断りのない限り、VSP G1000 および G1500 のストレージシステムを単に「ストレージシステム」と称することがあります。

マニュアルの参照と適合プログラムバージョン

マニュアルを参照されるときは、ご使用の「DKCMAIN」プログラムと同じ梱包内のプログラムプロダクト用のメディアに添付されているマニュアルを使用してください。このマニュアルは、DKCMAIN プログラムのバージョン「80-06-8X-XX/XX」以降（XX は規定外）に適合しています。

対象読者

このマニュアルは、次の方を対象読者として記述しています。

- ストレージシステムを運用管理する方
- UNIX[®]コンピュータまたは Windows[®]コンピュータを使い慣れている方
- Web ブラウザを使い慣れている方

使用する OS および Web ブラウザの種類については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

マニュアルで使用する記号について

このマニュアルでは、注意書きや補足情報を、次のとおり記載しています。



注意

データの消失・破壊のおそれや、データの整合性がなくなるおそれがある場合などの注意を示します。



メモ

解説、補足説明、付加情報などを示します。



ヒント

より効率的にストレージシステムを利用するのに役立つ情報を示します。

マニュアルに掲載されている画面図について

このマニュアルに掲載されている画面図の色は、ご利用のディスプレイ上に表示される画面の色と異なる場合があります。

このマニュアルでは、Windows コンピュータ上の Internet Explorer での画面を掲載しています。UNIX コンピュータ上でご使用の Storage Navigator の画面は、マニュアルに掲載されている画面の表示と異なる場合があります。Storage Navigator の画面や基本操作に関する注意事項については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

変更履歴

版番号	発行年月	変更内容
初版	2014年3月	新規 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-01-2X-XX/XX」以降)
第2版	2014年9月	初版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-02-0X-XX/XX」以降)
第3版	2015年1月	第2版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-02-2X-XX/XX」以降)
第4版	2015年7月	第3版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-03-0X-XX/XX」以降)
第5版	2016年9月	第4版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-05-0X-XX/XX」以降)
第6版	2017年2月	第5版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-05-2X-XX/XX」以降)
第7版	2017年4月	第6版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-05-4X-XX/XX」以降)
第8版	2017年12月	第7版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-05-4X-XX/XX」以降)
第9版	2021年7月	<ul style="list-style-type: none">CLPR 操作の注意事項を修正した (2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項を参照) 第8版を改訂 (適合 DKCMAIN プログラムバージョン:「80-06-8X-XX/XX」以降)

Virtual Partition Manager の概要

多数のホストに接続されたり、企業内の複数の部署や複数の企業に共有されたりしているストレージシステムに対して、特定のホストから大量の I/O 要求を発行した場合、他のホストの I/O パフォーマンスが低下するおそれがあります。Virtual Partition Manager 機能を使用すると、このような危険を防止できます。

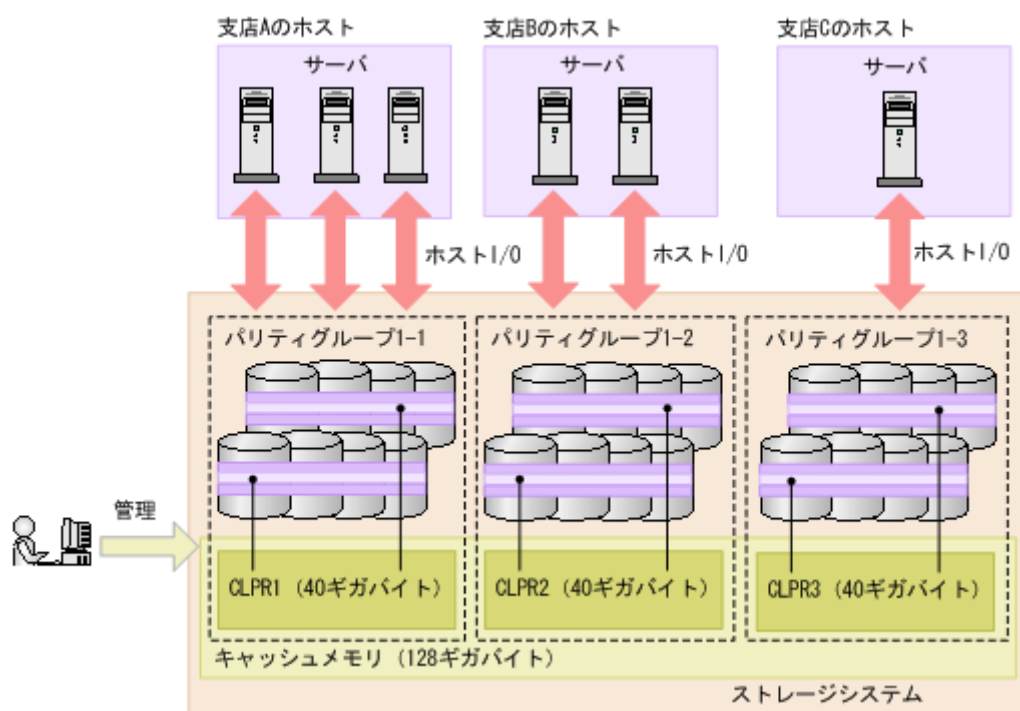
□ 1.1 キャッシュ分割機能

1.1 キャッシュ分割機能

多数のホストが1台のストレージシステムを共有している場合、特定のホストが大量のデータを読み書きすると、そのホストの読み書きデータがキャッシュメモリの多くの領域を占有してしまうことがあります。このような状況のもとでは、他のホストはキャッシュへの書き込みを待たなければならないため、データの書き込み速度が低下するおそれがあります。

Virtual Partition Manager のキャッシュ分割機能は、ストレージシステムに内蔵されているキャッシュメモリを複数の仮想キャッシュメモリに分割して、利用できるキャッシュ容量をあらかじめホストに割り当てておくため、特定のホストがキャッシュメモリの多くの領域を占有してしまうような状況を防ぐことができます。次の図の企業内ネットワークの例では、キャッシュメモリを3つの仮想キャッシュに分割し、それぞれを3つの支店に割り当てています。支店Aのホストはストレージシステムに対して、大量のアクセスをしています。利用可能なキャッシュ容量が40GBに制限されているため、支店Aのホストの読み書きデータがキャッシュ全体を占有することはありません。支店Aのホストがどれだけ大量のデータにアクセスしても、他の支店のホストは常に40GBのキャッシュ領域を利用できるため、支店Aのデータアクセス量の影響を受けて他の支店のデータ転送速度が遅くなることはありません。

キャッシュ分割機能を使って分割された仮想キャッシュメモリをCLPRと呼び、1台のストレージシステムにはデフォルトで提供されるCLPR0を含めて32個までCLPRを作成できます。CLPRの作成方法については、関連項目を参照してください。



CLPRには、次のどれかを割り当てることができます。割り当て方法については、関連項目を参照してください。

- パリティグループ
- 外部ボリューム
- Dynamic Provisioning または Thin Image の仮想ボリューム

Cache Residency Manager の機能を利用してキャッシュメモリを管理したい場合は、それぞれの CLPR に Cache Residency 用のキャッシュ領域を設けることができます。Cache Residency Manager の詳細については、『Performance Manager ユーザガイド(Performance Monitor, Server Priority Manager, Cache Residency Manager)』を参照してください。

CLPR に設けた Cache Residency 用のキャッシュ領域のことを、常駐キャッシュと呼びます。

関連タスク

- [3.2 CLPR を作成する](#)
- [3.3 CLPR 内のリソースを移動する](#)

Virtual Partition Manager の操作の準備

ここでは、CLPR を作成するための準備と Virtual Partition Manager を操作する上での注意事項について説明します。

- 2.1 CLPR 作成時のキャッシュ容量基準
- 2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項
- 2.3 ストレージシステムに予約されている CLPR 名

2.1 CLPR 作成時のキャッシュ容量基準

CLPR を作成する場合、推奨するキャッシュ容量は、MP ブレードの搭載数、RAID レベル、ストレージシステムに搭載するドライブ数、および適用するソフトウェアなどの条件によって決定されます。

CLPR 単位の推奨キャッシュ容量は次の計算式で算出してください。

CLPR 単位の推奨キャッシュ容量 (GB)=(CLPR 容量(GB)−↑(Cache Residency エクステンント容量 (MB)／2,048)↑×2GB)

2.1.1 Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、active flash for mainframe、Cache Residency Manager、Compatible XRC を適用しない場合

CLPR に次のプログラムプロダクトを適用しない場合は、表に示す推奨キャッシュ容量以上のキャッシュを割り当ててください。

- Dynamic Provisioning
- Dynamic Provisioning for Mainframe
- Dynamic Tiering
- Dynamic Tiering for Mainframe
- active flash
- active flash for mainframe
- Cache Residency Manager
- Compatible XRC

CLPR 単位の内部ボリューム ※と外部ボリューム合計容量	CLPR 単位の推奨キャッシュ容量							
	MP ブレ ード数 2	MP ブレ ード数 4	MP ブレ ード数 6	MP ブレ ード数 8	MP ブレ ード数 10	MP ブレ ード数 12	MP ブレ ード数 14	MP ブレ ード数 16
4TB 未満	8GB	12GB	20GB	28GB	36GB	44GB	52GB	60GB
4TB 以上	16GB	16GB	20GB	28GB	36GB	44GB	52GB	60GB
16TB 以上	24GB	24GB	24GB	28GB	36GB	44GB	52GB	60GB
48TB 以上	32GB	32GB	32GB	32GB	36GB	44GB	52GB	60GB
96TB 以上	40GB	40GB	40GB	40GB	40GB	44GB	52GB	60GB
160TB 以上	48GB	48GB	48GB	48GB	48GB	48GB	52GB	60GB
240TB 以上	56GB	56GB	56GB	56GB	56GB	56GB	56GB	60GB
360TB 以上	64GB	64GB	64GB	64GB	64GB	64GB	64GB	64GB
600TB 以上	72GB	72GB	72GB	72GB	72GB	72GB	72GB	72GB

注※

CLPR 単位の内部ボリューム容量は、次の計算式を使用して算出してください。

$$\text{CLPR 単位の内部ボリューム容量} = (\text{ディスク単体容量} \times 3 \times (3D + 1P) \text{のパーティグループ数}) + (\text{ディスク単体容量} \times 6 \times (6D + 2P) \text{のパーティグループ数}) + (\text{ディスク単体容量} \times 7 \times (7D + 1P) \text{のパーティグループ数}) + (\text{ディスク単体容量} \times 14 \times (14D + 2P) \text{のパーティグループ数}) + (\text{ディスク単体容量} \times 2 \times (2D + 2D) \text{のパーティグループ数})$$

外部ボリュームおよび仮想ボリュームを使用する場合は、上記の RAID 構成による計算式は適用できません。外部ボリュームを使用する場合は、CLPR 内に関連づけられている外部ボリュームのパーティグループ容量の合計を算出してください。また、仮想ボリュームを使用する場合は、CLPR 内に関連づけられている仮想ボリュームの LDEV 容量の合計を算出してください。仮想ボリュームの LDEV 容量は、[論理デバイス] 画面で確認してください。[論理デバイス] 画面については、『オープンシステム構築ガイド』または『メインフレームシステム構築ガイド』を参照してください。

2.1.2 Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、または active flash for mainframe を適用する場合

CLPR に次のプログラムプロダクトを適用する場合は、表に示す推奨キャッシュ容量以上のキャッシュを割り当ててください。

- Dynamic Provisioning
- Dynamic Provisioning for Mainframe
- Dynamic Tiering
- Dynamic Tiering for Mainframe
- active flash
- active flash for mainframe

CLPR 単位の内部ボリューム ※と外部ボリューム合計容量	CLPR 単位の推奨キャッシュ容量							
	MP ブレ ード数 2	MP ブレ ード数 4	MP ブレ ード数 6	MP ブレ ード数 8	MP ブレ ード数 10	MP ブレ ード数 12	MP ブレ ード数 14	MP ブレ ード数 16
4TB 未満	12GB	20GB	28GB	36GB	44GB	52GB	60GB	68GB
4TB 以上	16GB	20GB	28GB	36GB	44GB	52GB	60GB	68GB
16TB 以上	24GB	24GB	28GB	36GB	44GB	52GB	60GB	68GB
48TB 以上	32GB	32GB	32GB	36GB	44GB	52GB	60GB	68GB
96TB 以上	40GB	40GB	40GB	40GB	44GB	52GB	60GB	68GB
160TB 以上	48GB	48GB	48GB	48GB	48GB	52GB	60GB	68GB
240TB 以上	56GB	56GB	56GB	56GB	56GB	56GB	60GB	68GB
360TB 以上	64GB	64GB	64GB	64GB	64GB	64GB	64GB	68GB
600TB 以上	72GB	72GB	72GB	72GB	72GB	72GB	72GB	72GB

注※

CLPR 単位の内部ボリューム容量は、次の計算式を使用して算出してください。

CLPR 単位の内部ボリューム容量=(ディスク単体容量 × 3 × (3D + 1P)のパリティグループ数)+(ディスク単体容量 × 6 × (6D + 2P)のパリティグループ数)+(ディスク単体容量 × 7 × (7D + 1P)のパリティグループ数)+(ディスク単体容量 × 14 × (14D + 2P)のパリティグループ数)+(ディスク単体容量 × 2 × (2D + 2D)のパリティグループ数)

(1) 容量削減機能が有効な仮想ボリュームを使用する場合の推奨キャッシュ容量

容量削減機能の I/O 処理は、キャッシュされたメタデータにアクセスします。メタデータのキャッシュは、ユーザデータのキャッシュと同じ CLPR を使用しています。性能を重視してメタデータをキャッシュヒットさせたい場合、Dynamic Provisioning 適用時の推奨キャッシュ容量に加えて、その CLPR に所属する容量削減が有効な仮想ボリュームの合計容量の 0.2%分の CLPR 容量を増やすことを推奨します。最大キャッシュ搭載容量の制限によって 0.2%分を増やせない場合、最大 CLPR 容量にすることを推奨します。

容量削減機能の有効時の推奨キャッシュ容量 = Dynamic Provisioning 適用時の推奨キャッシュ容量 + (容量削減機能が有効な仮想ボリュームの合計容量 × 0.2%)

ストレージシステム内のすべてのボリュームが容量削減機能が有効な仮想ボリュームである場合、推奨キャッシュ容量を次に示します。

容量削減機能が有効な仮想ボリュームの合計容量	CLPR 単位の推奨キャッシュ容量							
	MP ブレード数 2	MP ブレード数 4	MP ブレード数 6	MP ブレード数 8	MP ブレード数 10	MP ブレード数 12	MP ブレード数 14	MP ブレード数 16
4TB 未満	20GB	28GB	36GB	44GB	52GB	60GB	68GB	76GB
4TB 以上	16GB+X [*]	20GB+X [*]	28GB+X [*]	36GB+X [*]	44GB+X [*]	52GB+X [*]	60GB+X [*]	68GB+X [*]
16TB 以上	24GB+X [*]	24GB+X [*]	28GB+X [*]	36GB+X [*]	44GB+X [*]	52GB+X [*]	60GB+X [*]	68GB+X [*]
48TB 以上	32GB+X [*]	32GB+X [*]	32GB+X [*]	36GB+X [*]	44GB+X [*]	52GB+X [*]	60GB+X [*]	68GB+X [*]
96TB 以上	40GB+X [*]	40GB+X [*]	40GB+X [*]	40GB+X [*]	44GB+X [*]	52GB+X [*]	60GB+X [*]	68GB+X [*]
160TB 以上	48GB+X [*]	48GB+X [*]	48GB+X [*]	48GB+X [*]	48GB+X [*]	52GB+X [*]	60GB+X [*]	68GB+X [*]
240TB 以上	56GB+X [*]	56GB+X [*]	56GB+X [*]	56GB+X [*]	56GB+X [*]	56GB+X [*]	60GB+X [*]	68GB+X [*]
360TB 以上	64GB+X [*]	64GB+X [*]	64GB+X [*]	64GB+X [*]	64GB+X [*]	64GB+X [*]	64GB+X [*]	68GB+X [*]
600TB 以上	72GB+X [*]	72GB+X [*]	72GB+X [*]	72GB+X [*]	72GB+X [*]	72GB+X [*]	72GB+X [*]	72GB+X [*]
982TB 以上	2,036GB	2,036GB	2,036GB	2,036GB	2,036GB	2,036GB	2,036GB	2,036GB

注※

X = 容量削減機能が有効な仮想ボリュームの合計容量 (GB) × 0.2 (%)

2.1.3 Cache Residency Manager を適用する場合

CLPR に Cache Residency Manager のプライオリティモードを使用する場合、Cache Residency Manager に使用するキャッシュのほかに、プライオリティモードを設定した領域の数に応じてキャッシュ容量を増設することを推奨します。詳細は『Performance Manager ユーザガイド (Performance Monitor, Cache Residency Manager)』のプライオリティモードについての記載を参照してください。

2.1.4 Compatible XRC を適用する場合

CLPR に Compatible XRC を適用する場合、サイドファイルと呼ぶ管理情報のためのキャッシュ容量が必要です。そのため、関連項目にある各項目で算出した推奨キャッシュ容量に、Compatible XRC の「スリープ待ちしきい値」を考慮した数値よりも多くのキャッシュ容量を割り当てることを推奨します。推奨キャッシュ容量は、次の計算式で算出してください。

推奨キャッシュ容量 \geq ((関連項目にある各項目で算出した推奨キャッシュ容量) \times 100 \div (100 - (スリープ待ちしきい値)))

関連参照

- [2.1.1 Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、active flash for mainframe、Cache Residency Manager、Compatible XRC を適用しない場合](#)
- [2.1.2 Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、または active flash for mainframe を適用する場合](#)
- [2.1.3 Cache Residency Manager を適用する場合](#)

2.1.5 Universal Volume Manager だけを適用する場合

作成する CLPR の構成が下記の条件を満たす場合は、以下の表に示す推奨キャッシュ容量を適用できます。推奨キャッシュ容量は搭載している MP ブレードの数によって異なります。

- 外部ボリュームだけを使用した CLPR である。
- データの転送速度は重視しない。
- マッピングされたボリュームのキャッシュモードが **Disable** である。
- オープンシステム用のボリュームだけを使用した CLPR である。

Universal Volume Manager だけを適用する CLPR の外部ボリューム合計容量	MP ブレード数	CLPR 単位の推奨キャッシュ容量
128TB 未満	2、4、6、または 8	8GB
	10 または 12	12GB
	14 または 16	16GB
128TB 以上	2 または 4	8GB
	6	12GB
	8	16GB
	10	20GB

Universal Volume Manager だけを適用する CLPR の外部ボリューム合計容量	MP ブレード数	CLPR 単位の推奨キャッシュ容量
	12	24GB
	14	28GB
	16	32GB

なお、ストレージシステムにキャッシュメモリを増設する場合は、標準モデルまたは高性能モデルのどちらかの実装方式で増設されます。ストレージシステムに増設部キャッシュボードがある場合、キャッシュメモリが高性能モデルで増設されている必要があります。キャッシュメモリの増設の詳細については、問い合わせ先にご連絡ください。

2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項

- CLPR の定義を追加または変更すると、数時間またはそれ以上時間がかかるのでご注意ください。
- CLPR を利用する場合、以下の操作は実行しないでください。
 - 複数の CLPR にわたる ShadowImage の Quick Restore
 - 複数の CLPR にわたる Volume Migration の移動
- Universal Replicator のデータボリュームとジャーナルボリュームは、それぞれ異なる CLPR に属するボリュームを定義できます。同じジャーナルのジャーナルボリュームはすべて同じ CLPR に定義されている必要があります。
- CLPR 名にはデフォルトで CLPR ID が設定されています。設定されている CLPR 名は、それぞれの CLPR ID で予約されているため、他の CLPR ID には変更できません。例えば、CLPR ID が 1 の場合、CLPR 名を「CLPR2」に設定することはできません。
- Cache Residency Manager のキャッシュ領域が定義された LDEV を含むパリティグループは、別の CLPR に移動できません。
- Cache Residency Manager のキャッシュ領域が定義された CLPR のキャッシュ容量を減らす場合、Cache Residency Manager のバインドモードまたはプライオリティモードの設定を取り消してから CLPR のキャッシュ容量変更を実施し、完了後に Cache Residency Manager のバインドモードまたはプライオリティモードを再設定してください。
- Cache Residency Manager のキャッシュ領域が定義された CLPR がある装置構成で、CPEX の追加を伴うキャッシュ増設を行う場合、Cache Residency Manager のバインドモードまたはプライオリティモードの設定を取り消してからキャッシュ増設を実施し、完了後に Cache Residency Manager のバインドモードまたはプライオリティモードを再設定してください。
- CLPR を作成または削除する場合、または作成済みの CLPR の容量を変更する場合は、操作の対象となる CLPR および CLPR0 の書き込み待ち率とサイドファイル占有率がすべての MP ブレードで次の式を満たしていることを確認してください。
 - CLPR のキャッシュ容量が減る場合

$$[\text{書き込み待ち率}] \times [\text{操作前のキャッシュ容量}] + [\text{操作後のキャッシュ容量}] < 30\%$$

$$[\text{サイドファイル占有率}] \times [\text{操作前のキャッシュ容量}] + [\text{操作後のキャッシュ容量}] < [\text{スリープ待ちしきい値}] \times 50\%$$
 - CLPR のキャッシュ容量が増える場合

$$[\text{サイドファイル占有率}] < [\text{スリープ待ちしきい値}] \times 50\%$$

- CLPR 操作（「CLPR の作成」、「CLPR の削除」、「CLPR 内のリソース移動」、および「CLPR の設定編集」）を続けて実行する場合、直前の CLPR 操作の処理が完了するまで、次の CLPR 操作を実施しないでください。
直前の CLPR 操作が完了する前に、次の CLPR 操作を実施した場合は、最後の操作が有効になります。CLPR の設定を見直して、再度操作してください。
例外として「CLPR 内のリソース移動」の処理中に「CLPR 内のリソース移動」だけは実行できます。

2.3 ストレージシステムに予約されている CLPR 名

CLPR ID	CLPR 名	CLPR ID	CLPR 名	CLPR ID	CLPR 名	CLPR ID	CLPR 名
0	CLPR0	8	CLPR8	16	CLPR16	24	CLPR24
1	CLPR1	9	CLPR9	17	CLPR17	25	CLPR25
2	CLPR2	10	CLPR10	18	CLPR18	26	CLPR26
3	CLPR3	11	CLPR11	19	CLPR19	27	CLPR27
4	CLPR4	12	CLPR12	20	CLPR20	28	CLPR28
5	CLPR5	13	CLPR13	21	CLPR21	29	CLPR29
6	CLPR6	14	CLPR14	22	CLPR22	30	CLPR30
7	CLPR7	15	CLPR15	23	CLPR23	31	CLPR31

Virtual Partition Manager の操作

Virtual Partition Manager は Storage Navigator または RAID Manager から操作できます。RAID Manager を使った操作方法については『RAID Manager ユーザガイド』を参照してください。

- 3.1 Virtual Partition Manager 操作の流れ
- 3.2 CLPR を作成する
- 3.3 CLPR 内のリソースを移動する
- 3.4 CLPR の設定を編集する
- 3.5 CLPR を削除する

3.1 Virtual Partition Manager 操作の流れ

キャッシュを論理的に分割する場合の操作の流れを次に示します。

1. CLPR を作成する。
2. CLPR にリソースを割り当てる。

次の設定は、CLPR の作成後に変更できます。

- CLPR 名
- CLPR のキャッシュ容量
- 常駐キャッシュの容量
- 常駐キャッシュの個数

不要になった CLPR は削除できます。CLPR を削除する場合の操作の流れを次に示します。

1. CLPR に割り当てたリソースを移動する。
2. CLPR を削除する。

3.2 CLPR を作成する

CLPR を1つも作成していない状態では、キャッシュ全体は CLPR0 で表示されます。CLPR を作成すると CLPR1 が追加され、これ以降は CLPR31 まで CLPR を作成できます。

CLPR を作成する場合、キャッシュ容量の初期値は 8GB です。CLPR は CLPR0 (キャッシュ全体) から必要な容量を割り当てて作成します。また、Cache Residency を使用している場合、CLPR0 のキャッシュ容量から Cache Residency 容量を引いた残りのキャッシュ容量は、8GB 以上必要です。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（システムリソース管理）ロール

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[キャッシュパーティション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムの配下の [キャッシュパーティション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [管理] ツリーから [キャッシュパーティション] を選択します。
2. 次のどれかの方法で、[CLPR 作成] 画面を表示します。
 - [よく使うタスク] から [CLPR 作成] を選択します。
 - [キャッシュパーティション] タブで [CLPR 作成] をクリックします。
 - [設定] メニューから [リソース管理] - [CLPR 作成] を選択します。
3. [CLPR 名] で、CLPR 名を入力します。

4. [合計キャッシュサイズ] で、CLPR のキャッシュ容量を、[常駐キャッシュサイズ] で常駐キャッシュの容量を、[常駐領域数] で常駐キャッシュの個数をそれぞれ選択します。
5. [追加] をクリックします。
作成した CLPR が、[選択した CLPR] テーブルに追加されます。CLPR を [選択した CLPR] テーブルから削除したい場合は、その CLPR のチェックボックスを選択して [削除] をクリックします。CLPR のチェックボックスを選択して [設定変更] をクリックすると、[設定変更] 画面が表示され、その CLPR の設定を変更できます。
6. [完了] をクリックします。
7. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
8. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

9. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

この時点では、まだ CLPR にリソースが割り当てられていません。CLPR にリソースを割り当てるには、他の CLPR (通常は CLPR0) からリソースを移動する必要があります。リソースの移動方法、作成済みの CLPR の設定の変更は、関連項目を参照してください。

関連タスク

- [3.3 CLPR 内のリソースを移動する](#)
- [3.4 CLPR の設定を編集する](#)

関連参照

- [2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項](#)
- [付録 A.3 CLPR 作成ウィザード](#)
- [付録 A.6 \[設定変更\] 画面](#)

3.3 CLPR 内のリソースを移動する

CLPR0 から作成した CLPR にリソースを移動します。ただし、分散パリティグループを構成している複数のパリティグループは、同一 CLPR に所属させる必要があります。なお、Cache Residency のキャッシュ領域が定義された LDEV を含むパリティグループは、別の CLPR に移動できません。

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（システムリソース管理）ロール

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[キャッシュパーティション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムの配下の [キャッシュパーティション] を選択します。

Storage Navigator を使用する場合：

- ・ [管理] ツリーから [キャッシュパーティション] を選択します。
2. 次のどちらかの方法で、[CLPR リソース移動] 画面を表示します。
 - ・ [キャッシュパーティション] タブを使用する場合
 - a. [管理] ツリーで [キャッシュパーティション] を選択します。
 - b. [キャッシュパーティション] タブを選択します。
 - c. 次のどちらかの方法で、[CLPR リソース移動] 画面を表示します。
 - ・ [キャッシュパーティション] タブで [CLPR リソース移動] をクリックします。
 - ・ [設定] メニューから [リソース管理] - [CLPR リソース移動] を選択します。
 - ・ [パリティグループ] タブまたは [仮想ボリューム] タブを使用する場合
 - a. [管理] ツリーで [キャッシュパーティション] を選択します。
 - b. [キャッシュパーティション] から、CLPR 名をクリックします。
 - c. [パリティグループ] タブまたは [仮想ボリューム] タブを選択します。
 - d. 次のどちらかの方法で、[CLPR リソース移動] 画面を表示します。
 - ・ [パリティグループ] タブまたは [仮想ボリューム] タブで [CLPR リソース移動] をクリックします。
 - ・ [設定] メニューから [リソース管理] - [CLPR リソース移動] を選択します。
 3. [利用可能なパリティグループ] テーブルまたは [利用可能な仮想ボリューム] テーブルから、移動するリソースのチェックボックスを選択します。
 4. [CLPRs] テーブルから、リソースの移動先 CLPR のラジオボタンを選択します。
 5. [セット] をクリックします。

[利用可能なパリティグループ] テーブルまたは [利用可能な仮想ボリューム] テーブルで選択したリソースが、[CLPRs] テーブルの選択した CLPR に移動します。CLPR のラジオボタンを選択して [詳細] をクリックすると、[CLPR プロパティ] 画面が表示され、その CLPR の詳細を確認できます。
 6. [完了] をクリックします。
 7. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
 8. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

9. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連参照

- ・ [2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項](#)
- ・ [付録 A.4 CLPR リソース移動ウィザード](#)
- ・ [付録 A.7 \[CLPR プロパティ\] 画面](#)

3.4 CLPR の設定を編集する

次の設定は、CLPR の作成後に変更できます。ただし、CLPR0 を編集対象とした場合、編集できるのは CLPR 名だけで、ほかの項目はすべて非活性になります。

- ・ CLPR 名

- CLPR のキャッシュ容量
- 常駐キャッシュの容量
- 常駐キャッシュの個数

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（システムリソース管理）ロール

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[キャッシュパーティション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムの配下の [キャッシュパーティション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [管理] ツリーから [キャッシュパーティション] を選択します。
2. 次のどちらかの方法で、[CLPR 編集] 画面を表示します。
 - 編集したい CLPR のチェックボックスを 1 つ選択した上で [キャッシュパーティション] タブで [CLPR 編集] をクリックします。
 - 編集したい CLPR のチェックボックスを 1 つ選択した上で [設定] メニューから [リソース管理] - [CLPR 編集] を選択します。[CLPR ID] には、自動的に割り当てられる CLPR ID が表示されます。
3. [CLPR 名] に、CLPR 名を入力します。
4. [合計キャッシュサイズ] で、CLPR のキャッシュ容量を、[常駐キャッシュサイズ] で常駐キャッシュの容量を、[常駐領域数] で常駐キャッシュの個数をそれぞれ選択します。
5. [完了] をクリックします。
6. [設定確認] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
7. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [適用] をクリックした後に [タスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

8. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連参照

- [2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項](#)
- [付録 A.5 CLPR 編集ウィザード](#)

3.5 CLPR を削除する

CLPR を削除する手順を次に示します。ただし、下記の CLPR は削除できません。

- CLPR0
- パリティグループ、または仮想ボリュームが割り当てられた CLPR

前提条件

- 必要なロール：ストレージ管理者（システムリソース管理）ロール

操作手順

1. 次のどちらかの方法で、[キャッシュパーティション] 画面を表示します。
Hitachi Command Suite を使用する場合：
 - [リソース] タブで [ストレージシステム] ツリーを展開します。ローカルストレージシステムの配下の [キャッシュパーティション] を選択します。Storage Navigator を使用する場合：
 - [管理] ツリーから [キャッシュパーティション] を選択します。
2. 削除する CLPR のチェックボックスを選択します。
3. 次のどちらかの方法で、[CLPR 削除] 画面を表示します。
 - [キャッシュパーティション] タブの [他のタスク] - [CLPR 削除] をクリックします。
 - [設定] メニューから [リソース管理] - [CLPR 削除] を選択します。
4. [CLPR 削除] 画面で設定内容を確認し、[タスク名] にタスク名を入力します。
5. [適用] をクリックして設定をストレージシステムに適用します。設定した内容はタスクとしてキューイングされ、順に実行されます。



ヒント

ウィザードを閉じたあとに [タスク] 画面を自動的に表示するには、ウィザードで [「適用」をクリックした後にタスク画面を表示] を選択して、[適用] をクリックします。

6. [タスク] 画面で、操作結果を確認します。実行前であれば、[タスク] 画面でタスクを一時中断したりキャンセルしたりできます。

関連参照

- [付録 A.8 \[CLPR 削除\] 画面](#)

4

Virtual Partition Manager のトラブルシューティング

ここでは、トラブルシューティングについて説明します。

- [4.1 Virtual Partition Manager のエラーと対策](#)
- [4.2 お問い合わせ先](#)

4.1 Virtual Partition Manager のエラーと対策

エラー	対策
CLPR 名 CLPR 名を変更できない。	複数の CLPR に同じ名称を付けることはできません。 入力した CLPR 名はすでに使われているか、またはストレージシステムに予約されています。 別の名称を入力してください。 ストレージシステムに予約されている CLPR 名については、「 2.3 ストレージシステムに予約されている CLPR 名 」を参照してください。
パリティグループ CLPR 内のパリティグループを、他の CLPR に移動できない。	CLPR 内のパリティグループを他の CLPR に移動できない場合は、次の作業を実行してください。 CLPR を新規に作成するときは、一度 [適用] をクリックしないとパリティグループを割り当てられません。今の状態のまま、[適用] をクリックしてからパリティグループを移動してください。パリティグループ内の LDEV に Cache Residency 設定が定義されている場合には、パリティグループの移動ができません。定義された Cache Residency を解除してからパリティグループを移動してください。

4.2 お問い合わせ先

- 保守契約をされているお客様は、以下の連絡先にお問い合わせください。
日立サポートサービス：<http://www.hitachi-support.com/>
- 保守契約をされていないお客様は、担当営業窓口にお問い合わせください。

Virtual Partition Manager GUI リファレンス

ここでは、Virtual Partition Manager を操作するために必要な画面について説明します。

- A.1 [キャッシュパーティション] 画面
- A.2 個別の CLPR 画面
- A.3 CLPR 作成ウィザード
- A.4 CLPR リソース移動ウィザード
- A.5 CLPR 編集ウィザード
- A.6 [設定変更] 画面
- A.7 [CLPR プロパティ] 画面
- A.8 [CLPR 削除] 画面

A.1 [キャッシュパーティション] 画面

項目	値	
CLPR数	21 (最大: 32)	
キャッシュサイズ	一般	173.00 GB
	常駐	31.50 GB
	合計	204.50 GB
リソース数	パリティグループ	162
	仮想ボリューム	2391
	合計	2553

CLPR名	キャッシュサイズ			リソース数	
	一般	常駐	合計	パリティグループ	仮想
CLPR0	13.00 GB	31.50 GB	44.50 GB	162	
CLPR1	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR2	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR3	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR4	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR5	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR6	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR7	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR8	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR9	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR10	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR11	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR12	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR13	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR14	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR15	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR16	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR17	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR18	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	
CLPR19	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0	

[管理] で [キャッシュパーティション] を選択したときに表示される画面です。次のエリアから構成されています。

- サマリ
- [キャッシュパーティション] タブ

サマリ

項目	説明
CLPR 数	ストレージシステムが保有する CLPR 数が表示されます。
キャッシュサイズ	ストレージシステムが保有するキャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [一般]: CLPR のキャッシュ容量が表示されます。 • [常駐]: 常駐キャッシュの容量が表示されます。 • [合計]: キャッシュの総容量が表示されます。
リソース数	ストレージシステムが保有する、CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [パリティグループ]: パリティグループ数が表示されます。

項目	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・ [仮想ボリューム]：仮想ボリューム数が表示されます。 ・ [合計]：CLPRに割り当て済みのリソース数が表示されます。

[キャッシュパーティション] タブ

- ・ ボタン

項目	説明
CLPR 作成	[CLPR 作成] 画面が表示されます。
CLPR リソース移動	[CLPR リソース移動] 画面が表示されます。
CLPR 編集	[CLPR 編集] 画面が表示されます。
CLPR 削除※	[CLPR 削除] 画面が表示されます。
テーブル情報出力※	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

注※

[他のタスク] ボタンをクリックすると表示されます。

- ・ テーブル

項目	説明
CLPR 名	CLPR 名が表示されます。 リンクをクリックすると各 CLPR を選択したときの画面に移動します。
CLPR ID※	CLPR ID が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [一般]：CLPR のキャッシュ容量が表示されます。 ・ [常駐]：常駐キャッシュの容量が表示されます。 ・ [合計]：キャッシュの総容量が表示されます。
リソース数	CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [パリティグループ]：パリティグループ数が表示されます。 ・ [仮想ボリューム]：仮想ボリューム数が表示されます。 ・ [合計]：CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

注※

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

A.2 個別の CLPR 画面

The screenshot shows the '0:CLPRO' management interface. At the top, there's a summary table for '0:CLPRO' with columns for 'キャッシュサイズ' (Cache Size), 'リソース数' (Resource Count), and 'パリティグループ' (Parity Group). Below this, there are tabs for 'パリティグループ' and '仮想ボリューム'. The main area displays a table of RAID configurations with columns for 'パリティグループID', 'RAIDレベル', 'ベースエミュレーションタイプ', and '容量'.

キャッシュサイズ	一般	常駐	合計	リソース数	パリティグループ
	13.00 GB [59%]	31.50 GB [41%]	44.50 GB		162
				常駐領域数	2391
					合計
					2553
					16384

パリティグループID	RAIDレベル	ベースエミュレーションタイプ	容量
1-1	5(3D+1P)	OPEN-V	8206.16 GB
1-2	5(3D+1P)	OPEN-V	8206.16 GB
1-3	5(7D+1P)	OPEN-V	19147.09 GB
1-4	6(6D+2P)	OPEN-V	16411.92 GB
2-1	1(2D+2D)	OPEN-V	5470.72 GB
2-2	1(2D+2D)	OPEN-V	5470.72 GB
5-1	5(3D+1P)	OPEN-V	1100.37 GB
5-2	5(3D+1P)	OPEN-V	805.19 GB
5-3	5(3D+1P)	OPEN-V	805.19 GB
5-4	5(7D+1P)	OPEN-V	3757.13 GB
6-2	1(2D+2D)	OPEN-V	536.77 GB
6-3	1(2D+2D)	OPEN-V	536.77 GB
E1-1	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-2	-	OPEN-V	23.61 GB
E1-3	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-4	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-5	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-6	-	OPEN-V	29.29 GB
E1-7	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-8	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-9	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-10	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-11	-	OPEN-V	12.00 GB
E1-12	-	OPEN-V	12.00 GB

[キャッシュパーティション] から各 CLPR を選択したときに表示される画面です。次のエリアから構成されています。

- サマリ
- [パリティグループ] タブ
- [仮想ボリューム] タブ

サマリ

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [一般]：CLPR のキャッシュ容量が表示されます。 • [常駐]：常駐キャッシュの容量が表示されます。 • [合計]：キャッシュの総容量が表示されます。
リソース数	CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [パリティグループ]：パリティグループ数が表示されます。

項目	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・ [仮想ボリューム]：仮想ボリューム数が表示されます。 ・ [合計]：CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

[パリティグループ] タブ

- ・ ボタン

項目	説明
CLPR リソース移動	[CLPR リソース移動] 画面が表示されます。
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

- ・ テーブル

項目	説明
パリティグループ ID	パリティグループ ID が表示されます。 リンクをクリックすると各パリティグループを選択したときの画面に移動します。
RAID レベル	RAID レベルが表示されます。
ベースエミュレーションタイプ	パリティグループのエミュレーションタイプが表示されます。
容量	容量が表示されます。

[仮想ボリューム] タブ

- ・ ボタン

項目	説明
CLPR リソース移動	[CLPR リソース移動] 画面が表示されます。
テーブル情報出力	テーブル情報を出力させる画面が表示されます。

- ・ テーブル

項目	説明
LDEV ID	LDEV ID が表示されます。 リンクをクリックすると各 LDEV のプロパティ画面に移動します。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
RAID レベル	RAID レベルが表示されます。
エミュレーションタイプ	仮想ボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。
容量	容量が表示されます。
プロビジョニングタイプ	LDEV の種類が表示されます。
仮想ストレージマシン※	仮想ストレージマシンに関する情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [モデル/シリアル番号]：LDEV の、仮想ストレージマシンのモデルとシリアル番号が表示されます。 ・ [LDEV ID]：LDEV の仮想 LDEV ID が表示されます。仮想 LDEV ID が未割り当ての場合、空白が表示されます。

項目	説明
	<ul style="list-style-type: none"> [デバイス名] : LDEV の仮想デバイス名が表示されます。仮想デバイス名は、仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数および仮想 CVS 属性を組み合わせた形式で表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数、および仮想 CVS 属性のうち、設定済みの項目だけが表示されます。仮想エミュレーションタイプ、仮想 LUSE ボリューム数および仮想 CVS 属性を設定していない場合は、空白が表示されます。仮想 CVS 属性を設定している場合は、[CVS] が末尾に追加されます。 [SSID] : LDEV の仮想 SSID が表示されます。仮想 SSID が設定されていない場合は、空白が表示されます。

注※

この項目は、初期状態では表示されません。項目を表示する場合は、[カラム設定] 画面で設定を変更してください。[カラム設定] 画面の詳細については、『Hitachi Device Manager - Storage Navigator ユーザガイド』を参照してください。

A.3 CLPR 作成ウィザード

関連タスク

- 3.2 CLPR を作成する

A.3.1 [CLPR 作成] 画面

情報設定エリア

画面左側のエリアで、CLPR の作成を操作します。

項目	説明
CLPR ID	空いている CLPR ID のうち、最も小さい番号が表示されます。 設定できる CLPR ID がない場合は、空白が表示されます。
CLPR 名	CLPR 名を入力します。 CLPR が設定できる最大数に達している場合は、空白が表示されます。 CLPR 名には、16 文字までの英数字が使用できます。ただし、ストレージシステムに予約されている CLPR 名に変更することはできません。詳細については、「 2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項 」を参照してください。
合計キャッシュサイズ	CLPR のキャッシュ容量を選択します。 CLPR ID が設定できる最大数に達している場合は、空白が表示されます。 CLPR のキャッシュ容量には、8GB 以上の値を選択できます。最大値は、2,022GB (ストレージシステムのキャッシュ容量から 8GB を差し引いた値) ですが、上限値については、使用可能最大容量 (実装値から他の CLPR の総使用量を引いたもの) が表示されます。デフォルトは 8GB で、4GB 単位で容量を増やすことができます。 合計キャッシュサイズから常駐キャッシュサイズを引いた残りの容量は、8GB 以上必要です。合計キャッシュサイズおよび常駐キャッシュサイズを指定するときは、合計キャッシュサイズから常駐キャッシュサイズを引いた残りの容量が CLPR0 に 8GB 以上あることを確認してください。Cache Residency の詳細については、『Performance Manager ユーザガイド (Performance Monitor, Server Priority Manager, Cache Residency Manager)』を参照してください。
常駐キャッシュサイズ	常駐キャッシュの容量を選択します。 CLPR ID が設定できる最大数に達している場合は、空白が表示されます。 常駐キャッシュの容量には、0GB 以上の値を選択できます。最大値は、2,014GB (ストレージシステムの Cache Residency 容量) ですが、上限値については、使用可能最大容量 (実装値から他の CLPR の総使用量を引いたもの) が表示されます。デフォルトは 0GB で、0.5GB 単位で容量を増やすことができます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数を入力します。 CLPR ID が設定できる最大数に達している場合は、空白が表示されます。 常駐キャッシュの個数には、0 から 16384 の範囲で個数を入力できますが、上限値については、使用可能最大容量 (実装値から他の CLPR の総使用量を引いたもの) が表示されます。デフォルトは 0 です。

[追加] ボタン

画面左側のエリアで設定した CLPR を、[選択した CLPR] テーブルに追加します。

[デフォルト CLPR] テーブル

CLPR ID 0 の情報が表示されます。

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 作成した CLPR に応じて、数値が変化します。 <ul style="list-style-type: none">・ [一般]: CLPR のキャッシュ容量が表示されます。・ [常駐]: 常駐キャッシュの容量が表示されます。・ [合計]: キャッシュの総容量が表示されます。

項目	説明
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。 作成した CLPR に応じて、数値が変化します。

【選択した CLPR】 テーブル

画面右側のエリアで、作成する CLPR の情報が表示されます。

- テーブル

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [一般]：CLPR のキャッシュ容量が表示されます。 • [常駐]：常駐キャッシュの容量が表示されます。 • [合計]：キャッシュの総容量が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

- ボタン

項目	説明
設定変更	[設定変更] 画面が表示されます。
削除	選択した CLPR を、【選択した CLPR】 テーブルから削除します。

A.3.2 【設定確認】 画面

CLPR作成 [?] [] [X]

1. CLPR作成 > **2. 確認**

タスク名を入力してください。リストの設定を確認し、「適用」をクリックするとタスクがタスクキュー（実行待ちタスク）に追加されます。

タスク名: (最大32文字)

デフォルト CLPR				
CLPR	キャッシュサイズ			常駐領域数
	一般	常駐	合計	
0:CLPR0	125.00 GB	31.50 GB	156.50 GB	16384

選択した CLPR				
CLPR	キャッシュサイズ			常駐領域数
	一般	常駐	合計	
6:CLPR6	8.00 GB	0.00 GB	8.00 GB	0
合計: 1				

合計: 1

「適用」をクリックした時にタスク画面を表示
 < 戻る
次へ >
適用
キャンセル
?

[デフォルト CLPR] テーブル

CLPR ID 0 の情報を確認します。

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">・ [一般] : CLPR のキャッシュ容量が表示されます。・ [常駐] : 常駐キャッシュの容量が表示されます。・ [合計] : キャッシュの総容量が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

[選択した CLPR] テーブル

作成する CLPR の情報を確認します。

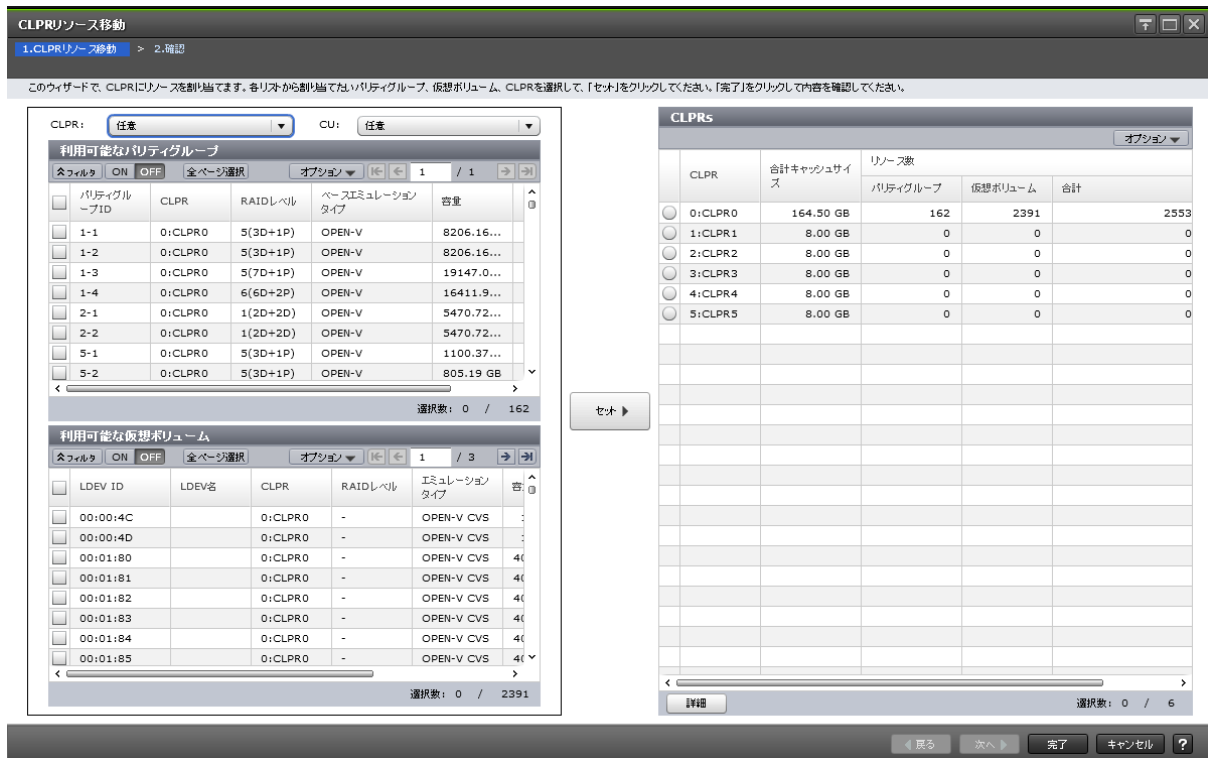
項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">・ [一般] : CLPR のキャッシュ容量が表示されます。・ [常駐] : 常駐キャッシュの容量が表示されます。・ [合計] : キャッシュの総容量が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

A.4 CLPR リソース移動ウィザード

関連タスク

- ・ [3.3 CLPR 内のリソースを移動する](#)

A.4.1 [CLPR リソース移動] 画面



[CLPR]

[利用可能なパリティグループ] テーブルと [利用可能な仮想ボリューム] テーブルをフィルタします。

デフォルトは「任意」です。

[CU]

[利用可能な仮想ボリューム] テーブルをフィルタします。

デフォルトは「任意」です。

[利用可能なパリティグループ] テーブル

項目	説明
パリティグループ ID	パリティグループ ID が表示されます。
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
RAID レベル	RAID レベルが表示されます。
ベースエミュレーションタイプ	パリティグループのエミュレーションタイプが表示されます。
容量	パリティグループの総容量が表示されます。
リソースグループ名 (ID)	パリティグループのリソースグループの名称と ID が表示されます。ID は括弧内に表示されます。

【利用可能な仮想ボリューム】 テーブル

項目	説明
LDEV ID	LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
RAID レベル	RAID レベルが表示されます。
エミュレーションタイプ	仮想ボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。
容量	容量が表示されます。
プロビジョニングタイプ	LDEV の種類が表示されます。
リソースグループ名 (ID)	LDEV のリソースグループの名称と ID が表示されます。ID は括弧内に表示されます。

【セット】 ボタン

画面左側のエリアで選択したリソースを、【CLPRs】 テーブルで選択した CLPR に割り当てます。

【CLPRs】 テーブル

画面右側のエリアで、CLPR に割り当てるリソースの情報が表示されます。

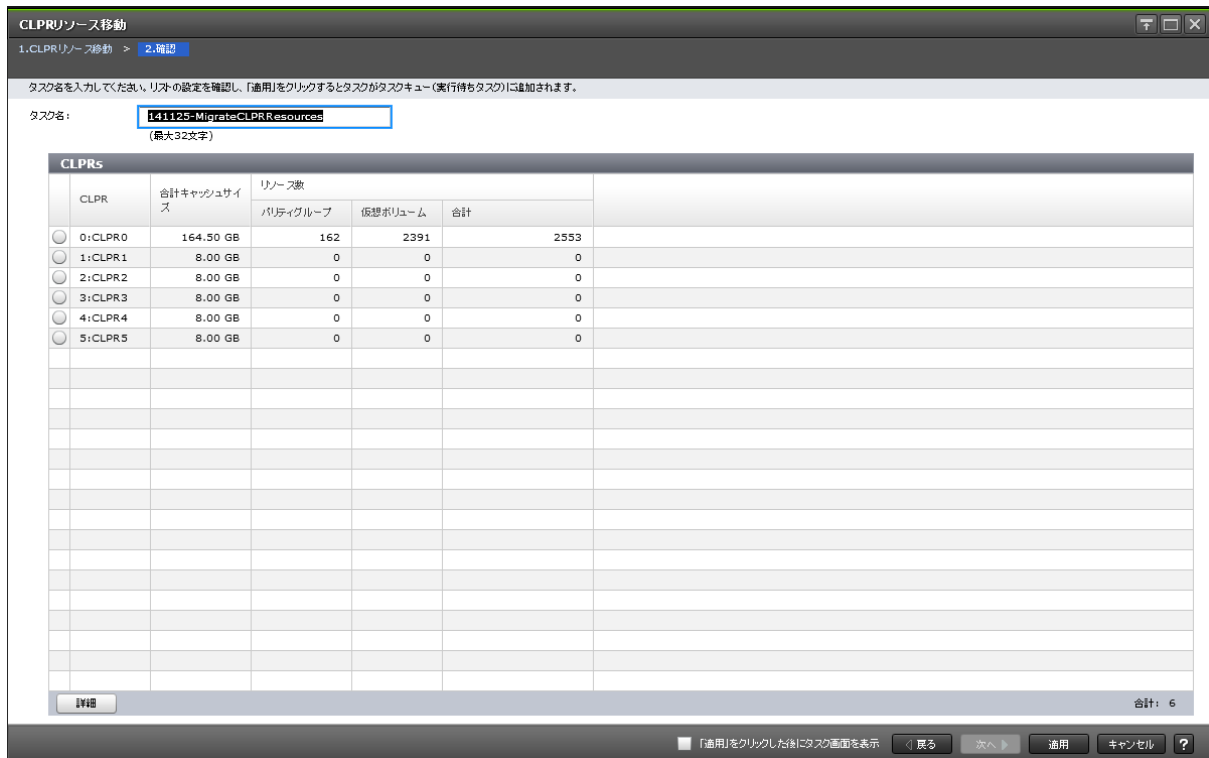
- テーブル

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
合計キャッシュサイズ	キャッシュの総容量が表示されます。
リソース数	CLPR に割り当てるリソース数が表示されます。 割り当てるリソースに応じて、数値が変化します。 <ul style="list-style-type: none"> • 【パリティグループ】：パリティグループ数が表示されます。 • 【仮想ボリューム】：仮想ボリューム数が表示されます。 • 【合計】：CLPR に割り当てるリソース数が表示されます。

- ボタン

項目	説明
詳細	【CLPR プロパティ】 画面が表示されます。

A.4.2 [設定確認] 画面



[CLPRs] テーブル

CLPR に割り当てるリソースの情報を確認します。

- テーブル

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
合計キャッシュサイズ	キャッシュの総容量が表示されます。
リソース数	CLPR に割り当てるリソース数が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [パリティグループ]: パリティグループ数が表示されます。 • [仮想ボリューム]: 仮想ボリューム数が表示されます。 • [合計]: CLPR に割り当てるリソース数が表示されます。

- ボタン

項目	説明
詳細	[CLPR プロパティ] 画面が表示されます。

A.5 CLPR 編集ウィザード

関連タスク

- [3.4 CLPR の設定を編集する](#)

A.5.1 [CLPR 編集] 画面

情報設定エリア

項目	説明
CLPR ID	CLPR ID が表示されます。
CLPR 名	CLPR 名を入力します。 デフォルトでは、CLPR ID が表示されます。 CLPR 名には、16 文字までの英数字が使用できます。ただし、ストレージシステムに予約されている CLPR 名に変更することはできません。詳細については、「 2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項 」を参照してください。
合計キャッシュサイズ	CLPR のキャッシュ容量を選択します。CLPR0 を編集対象とした場合は、非活性になります。 CLPR のキャッシュ容量には、8GB 以上の値を選択できます。最大値は、2,022GB (ストレージシステムのキャッシュ容量から 8GB を差し引いた値) ですが、上限値については、使用可能最大容量 (実装値から他の CLPR の総使用量を引いたもの) が表示されます。デフォルトは CLPR を作成したときに設定した値で、4GB 単位で容量を増やすことができます。 合計キャッシュサイズから常駐キャッシュサイズを引いた残りの容量は、8GB 以上が必要です。合計キャッシュサイズおよび常駐キャッシュサイズを指定するときは、合計キャッシュサイズから常駐キャッシュサイズを引いた残りの容量が CLPR0 に 8GB 以上あることを確認してください。Cache Residency の詳細については、『Performance Manager ユーザガイド(Performance Monitor, Server Priority Manager, Cache Residency Manager)』を参照してください。また、合計キャッシュサイズの容量を縮小すると、変更前の常駐キャッシュサイズが適用できない場合があります。その場合、常駐キャッシュサイズの値を確認し、[常駐キャッシュサイズ] のチェックボックスをチェックしてください。

項目	説明
常駐キャッシュサイズ	<p>常駐キャッシュの容量を選択します。CLPR0 を編集対象とした場合は、非活性になります。</p> <p>常駐キャッシュの容量には、0GB 以上の値を選択できます。最大値は、2,014GB（ストレージシステムの Cache Residency 容量）ですが、上限値については、使用可能最大容量（実装値から他の CLPR の総使用量を引いたもの）が表示されます。デフォルトは CLPR を作成したときに設定した値で、0.5GB 単位で容量を増やすことができます。</p> <p>選択した CLPR にすでに常駐キャッシュがある場合は、[常駐キャッシュサイズ] を、すでに設定されている常駐キャッシュの容量より少なく設定すると、エラーとなります。設定値を変更する前に、選択した CLPR に設定されている常駐キャッシュの容量を確認してください。</p>
常駐領域数	<p>常駐キャッシュの個数を入力します。CLPR0 を編集対象とした場合は、非活性になります。</p> <p>常駐キャッシュの個数には、0 から 16384 の範囲で個数を入力できますが、上限値については、使用可能最大容量（実装値から他の CLPR の総使用量を引いたもの）が表示されます。デフォルトは CLPR を作成したときに設定した値です。</p> <p>選択した CLPR にすでに常駐キャッシュがある場合は、[常駐領域数] を、すでに設定されている常駐キャッシュの個数より少なく設定すると、エラーとなります。設定値を変更する前に、選択した CLPR に設定されている常駐キャッシュの個数を確認してください。</p>

A.5.2 [設定確認] 画面

CLPR編集
1. CLPR編集 > 2. 確認

タスク名を入力してください。リストの設定を確認し、「適用」をクリックするとタスクがタスクキュー（実行待ちタスク）に追加されます。

タスク名:
(最大32文字)

CLPR	キャッシュサイズ			常駐領域数
	一般	常駐	合計	
0:CLPR0	133.00 GB	31.50 GB	164.50 GB	

CLPR	キャッシュサイズ			常駐領域数
	一般	常駐	合計	
0:CLPR0	133.00 GB	31.50 GB	164.50 GB	

合計: 1

「適用」をクリックした後にはタスク画面を表示

[デフォルト CLPR] テーブル

CLPR ID 0 の情報を確認します。

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [一般] : CLPR のキャッシュ容量が表示されます。 ・ [常駐] : 常駐キャッシュの容量が表示されます。 ・ [合計] : キャッシュの総容量が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

【選択した CLPR】 テーブル

編集する CLPR の情報を確認します。

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [一般] : CLPR のキャッシュ容量が表示されます。 ・ [常駐] : 常駐キャッシュの容量が表示されます。 ・ [合計] : キャッシュの総容量が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

A.6 【設定変更】 画面

情報設定エリア

項目	説明
CLPR 名	CLPR 名を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [固定文字] : 16 文字までの英数字が使用できます。デフォルトは CLPR を作成したときに設定した名称です。ただし、ストレージシステムに予約されている CLPR 名に変更することはできません。詳細については、「2.2 Virtual Partition Manager 操作上の注意事項」を参照してください。

項目	説明
	<ul style="list-style-type: none"> [開始番号]: 0 から 9 までの数字が使用できます。デフォルトは空白です。使用できる文字数は 9 文字までです。ただし、[固定文字] と [開始番号] を合わせて、使用できる文字数は 16 文字までです。

関連タスク

- 3.2 CLPR を作成する

A.7 [CLPR プロパティ] 画面

CLPRプロパティ

CLPR			0:CLPR0
キャッシュサイズ	一般		133.00 GB
	常駐		31.50 GB
	合計		164.50 GB
リソース数	パリティグループ		162
	仮想ボリューム		2391
	合計		2553
常駐領域数			16384

パリティグループ

パリティグループID	移動済み	RAIDレベル	ベースエミュレーションタイプ	容量
1-1	非該当	5(3D+1P)	OPEN-V	8206.16...
1-2	非該当	5(3D+1P)	OPEN-V	8206.16...
1-3	非該当	5(7D+1P)	OPEN-V	19147.0...
1-4	非該当	6(6D+2P)	OPEN-V	16411.9...
2-1	非該当	1(2D+2D)	OPEN-V	5470.72...
2-2	非該当	1(2D+2D)	OPEN-V	5470.72...
5-1	非該当	5(3D+1P)	OPEN-V	1100.37...
5-2	非該当	5(3D+1P)	OPEN-V	805.18 GB

合計: 162

仮想ボリューム

LDEV ID	LDEV名	移動済み	RAIDレベル	エミュレーションタイプ	容量	プロビジョニングタイプ
00:00:4C		非該当	-	OPEN-V CVS	12.00 GB	DP
00:00:4D		非該当	-	OPEN-V CVS	12.00 GB	Snapshot
00:01:80		非該当	-	OPEN-V CVS	4096.00...	DP
00:01:81		非該当	-	OPEN-V CVS	4096.00...	DP
00:01:82		非該当	-	OPEN-V CVS	4096.00...	DP
00:01:83		非該当	-	OPEN-V CVS	4096.00...	DP
00:01:84		非該当	-	OPEN-V CVS	4096.00...	DP
00:01:85		非該当	-	OPEN-V CVS	4096.00...	DP

合計: 2391

[CLPR プロパティ] テーブル

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> [一般]: CLPR のキャッシュ容量が表示されます。 [常駐]: 常駐キャッシュの容量が表示されます。 [合計]: キャッシュの総容量が表示されます。
リソース数	CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。

項目	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・ [パリティグループ]: パリティグループ数が表示されます。 ・ [仮想ボリューム]: 仮想ボリューム数が表示されます。 ・ [合計]: CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

[パリティグループ] テーブル

項目	説明
パリティグループ ID	パリティグループ ID が表示されます。
移動済み	CLPR 割り当てによる変更の有無が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [該当]: 割り当てによる変更があります。 ・ [非該当]: 割り当てによる変更がありません。
RAID レベル	RAID レベルが表示されます。
ベースエミュレーションタイプ	パリティグループのエミュレーションタイプが表示されます。
容量	容量が表示されます。

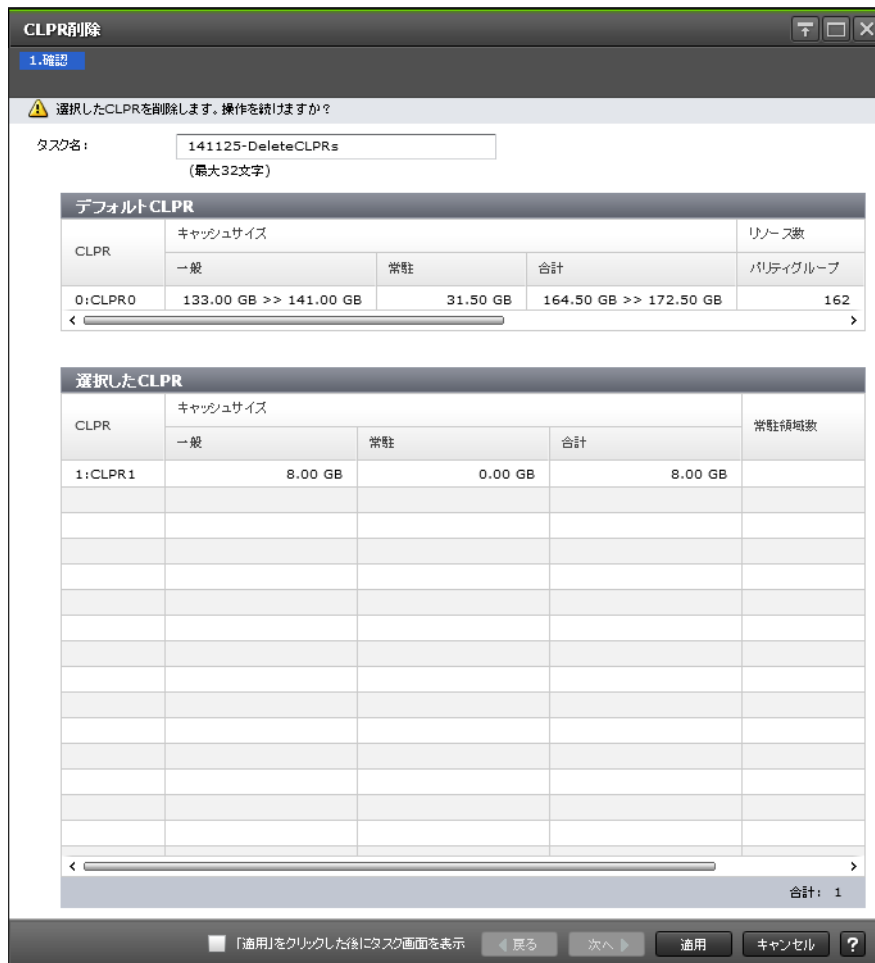
[仮想ボリューム] テーブル

項目	説明
LDEV ID	LDEV ID が表示されます。
LDEV 名	LDEV 名が表示されます。
移動済み	CLPR 割り当てによる変更の有無が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [該当]: 割り当てによる変更があります。 ・ [非該当]: 割り当てによる変更がありません。
RAID レベル	RAID レベルが表示されます。
エミュレーションタイプ	仮想ボリュームのエミュレーションタイプが表示されます。
容量	容量が表示されます。
プロビジョニングタイプ	LDEV の種類が表示されます。

関連タスク

- ・ [3.3 CLPR 内のリソースを移動する](#)

A.8 [CLPR 削除] 画面



[デフォルト CLPR] テーブル

CLPR ID 0 の情報を確認します。

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [一般]：CLPR のキャッシュ容量が表示されます。 ・ [常駐]：常駐キャッシュの容量が表示されます。 ・ [合計]：キャッシュの総容量が表示されます。
リソース数	CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [パリティグループ]：パリティグループ数が表示されます。 ・ [仮想ボリューム]：仮想ボリューム数が表示されます。 ・ [合計]：CLPR に割り当て済みのリソース数が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

【選択した CLPR】 テーブル

削除する CLPR の情報を確認します。

項目	説明
CLPR	CLPR ID および CLPR 名が表示されます。
キャッシュサイズ	キャッシュの容量が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">・ [一般] : CLPR のキャッシュ容量が表示されます。・ [常駐] : 常駐キャッシュの容量が表示されます。・ [合計] : キャッシュの総容量が表示されます。
常駐領域数	常駐キャッシュの個数が表示されます。

関連タスク

- ・ [3.5 CLPR を削除する](#)

このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

- [B.1 操作対象リソースについて](#)
- [B.2 マニュアルで使用する用語について](#)
- [B.3 このマニュアルでの表記](#)
- [B.4 このマニュアルで使用している略語](#)
- [B.5 KB \(キロバイト\) などの単位表記について](#)

B.1 操作対象リソースについて

Storage Navigator のメイン画面には、ログインしているユーザ自身に割り当てられているリソースだけが表示されます。ただし、割り当てられているリソースの管理に必要とされる関連のリソースも表示される場合があります。

また、このマニュアルで説明している機能を使用するときには、各操作対象のリソースが特定の条件を満たしている必要があります。

各操作対象のリソースの条件については『オープンシステム構築ガイド』または『メインフレームシステム構築ガイド』を参照してください。

B.2 マニュアルで使用する用語について

このマニュアルでは、Storage Navigator が動作しているコンピュータを便宜上「Storage Navigator 動作 PC」と呼びます。また、論理ボリュームは特に断りがない場合、「ボリューム」と呼びます。

B.3 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記を次の表に示します。

表記	製品名
DP	Dynamic Provisioning
Storage Navigator	Hitachi Device Manager - Storage Navigator
VSP	Hitachi Virtual Storage Platform
VSP F1500	Virtual Storage Platform F1500
VSP G1000	Virtual Storage Platform G1000
VSP G1500	Virtual Storage Platform G1500

B.4 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	フルスペル
CLPR	Cache Logical Partition
CU	Control Unit
GUI	Graphical User Interface
I/O	Input/Output
ID	IDentifier
LDEV	Logical DEVice
LDKC	Logical DKC
LU	Logical Unit

略語	フルスペル
OS	Operating System
RAID	Redundant Array of Independent Disks
XRC	eXtended Remote Copy

B.5 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）は1,024バイト、1MB（メガバイト）は1,024KB、1GB（ギガバイト）は1,024MB、1TB（テラバイト）は1,024GB、1PB（ペタバイト）は1,024TBです。

1block（ブロック）は512バイトです。

1Cyl（シリンダ）をKBに換算した値は、ボリュームのエミュレーションタイプによって異なります。オープンシステムの場合、OPEN-Vの1Cylは960KBで、OPEN-V以外のエミュレーションタイプの1Cylは720KBです。メインフレームシステムの場合、1Cylは870KBです。3380-xx、6586-xxについて、CLIおよびGUIのLDEV容量の表示は、ユーザがデータを格納できるユーザ領域の容量を表示するため、1Cylを720KBとしています。xxは任意の数字または文字を示します。



用語解説

(英字)

ALU

(Administrative Logical Unit)

SCSI アーキテクチャモデルである Conglomerate LUN structure に使われる LU です。

Conglomerate LUN structure では、ホストからのアクセスはすべて ALU を介して行われ、ALU はバインドされた SLU に I/O を振り分けるゲートウェイとなります。

ホストは、ALU と ALU にバインドされた SLU を SCSI コマンドで指定して、I/O を発行します。

vSphere では、Protocol Endpoint (PE) と呼ばれます。

ALUA

(Asymmetric Logical Unit Access)

SCSI の非対称論理ユニットアクセス機能です。

ストレージ同士、またはサーバとストレージシステムを複数の交替パスで接続している構成の場合に、どのパスを優先して使用するかをストレージシステムに定義して、I/O を発行できます。優先して使用するパスに障害が発生した場合は、他のパスに切り替わります。

CC

(Concurrent Copy)

IBM 社の Concurrent Copy 機能のことです。

CHA

(Channel Adapter)

詳しくは「チャンネルアダプタ」を参照してください。

CHP OFF

IBM のメインフレームシステム用の機能で、チャンネルパス (ホストとボリュームの間のパス) を無効にする機能です。

CLPR

(Cache Logical Partition)

キャッシュメモリを論理的に分割すると作成されるパーティション (区画) です。

CM

(Cache Memory (キャッシュメモリ))

詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CPEX

(Cache Path control adapter and PCI EXpress path switch)
詳しくは「キャッシュ」を参照してください。

CSV

(Comma Separate Values)
データベースソフトや表計算ソフトのデータをファイルとして保存するフォーマットの1つで、主にアプリケーション間のファイルのやり取りに使われます。それぞれの値はコンマで区切られています。

CTG

(Consistency Group)
詳しくは「コンシステンシーグループ」を参照してください。

CU

(Control Unit (コントロールユニット))
主に磁気ディスク制御装置を指します。

CV

(Customized Volume)
固定ボリューム (FV) を任意のサイズに分割した可変ボリュームです。

CYL

(Cylinder (シリンダ))
複数枚の磁気ディスクから構成される磁気ディスク装置で、磁気ディスクの回転軸から等距離にあるトラックが磁気ディスクの枚数分だけ垂直に並び、この集合を指します。

DKC

(Disk Controller)
ストレージシステムを制御するコントローラが備わっているシャーシ (筐体) です。

DKU

(Disk Unit)
各種ドライブを搭載するためのシャーシ (筐体) です。

DP-VOL

詳しくは「仮想ボリューム」を参照してください。

EAV

(Extended Address Volume)
IBM 社のストレージシステムが提供している、従来の 3390 型ボリュームではサポートできない大容量のボリュームを定義するための機能です。最大で、1,182,006 シリンダ/ボリュームまで定義できます。

ECC

(Error Check and Correct)
ハードウェアで発生したデータの誤りを検出し、訂正することです。

ExG

(External Group)

外部ボリュームを任意にグループ分けしたものです。詳しくは「外部ボリュームグループ」を参照してください。

External MF

詳しくは「マイグレーションボリューム」を参照してください。

External ポート

外部ストレージシステムを接続するために使用する、ストレージシステムのポートです。

FCF

(Fibre Channel Forwarder)

FCoE スイッチです。

FCoE

(Fibre Channel over Ethernet)

ファイバチャネルのフレームを IEEE DCB (Data Center Bridging) などの拡張された Ethernet 上で動作させるための規格です。

FIBARC

(Fibre Connection Architecture)

メインフレームシステム用の光チャネルの一種です。高速データ転送を実現します。

FICON

(Fibre Connection)

メインフレームシステム用の光チャネルの一種です。FICON では、ファイバチャネルの標準に基づいて ESCON[®] の機能が拡張されており、全二重データによる高速データ転送がサポートされています。

FM

(Flash Memory (フラッシュメモリ))

詳しくは「フラッシュメモリ」を参照してください。

FMC

(Flash Memory Compressed)

ストレージシステムにオプションの記憶媒体として搭載される大容量フラッシュモジュールです。従来の FMD に対して、書き込みデータ圧縮機能をサポートしています。FMC を利用するには FMD と同様の専用のドライブボックスが必要になります。FMC と専用のドライブボックスをあわせて HAF DC2 (Hitachi Accelerated Flash DC2) と呼びます。

FMD

(Flash Module Drive)

ストレージシステムにオプションの記憶媒体として搭載される大容量フラッシュモジュールです。SSD よりも大容量のドライブです。FMD を利用するには専用のドライブボックスが必要になります。FMD と専用のドライブボックスをあわせて HAF (Hitachi Accelerated Flash) と呼びます。

FV

(Fixed Volume)

容量が固定されたボリュームです。

GID

(Group ID)

ホストグループを作成するときに付けられる 2 桁の 16 進数の識別番号です。

HCS

(Hitachi Command Suite)

ストレージ管理ソフトウェアです。

HDEV

(Host Device)

ホストに提供されるボリュームです。

Hyper PAV

IBM OS の機能で、PAV の発展機能です。あるベースデバイスに割り当てたエイリアスデバイスが、同一 CU 内のベースデバイスすべてのエイリアスデバイスとして共有化されます。VSP G1000, G1500 および VSP F1500 で Compatible Hyper PAV 機能を使用することにより、IBM OS から VSP G1000, G1500 および VSP F1500 上のデバイスに対してこの機能を使えるようになります。

I/O モード

global-active device ペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームが、それぞれに持つ I/O の動作です。

I/O レート

ドライブへの入出力アクセスが 1 秒間に何回行われたかを示す数値です。単位は IOPS (I/Os per second) です。

In-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから、ストレージシステムのコマンドデバイスにコマンドが転送されます。

Initiator ポート

RCU Target ポートと接続します。Initiator ポートは、ホストのポートとは通信できません。

LCU

(Logical Control Unit)

主に磁気ディスク制御装置を指します。

LDEV

(Logical Device (論理デバイス))

RAID 技術では冗長性を高めるため、複数のドライブに分散してデータを保存します。この複数のドライブにまたがったデータ保存領域を論理デバイスまたは LDEV と呼びます。ストレージ内の LDEV は、LDKC 番号、CU 番号、LDEV 番号の組み合わせで区別します。LDEV に任意の名前を付けることもできます。

このマニュアルでは、LDEV (論理デバイス) を論理ボリュームまたはボリュームと呼ぶことがあります。

LDEV 名

LDEV 作成時に、LDEV に付けるニックネームです。あとから LDEV 名の変更もできます。

LDKC

(Logical Disk Controller)

複数の CU を管理するグループです。各 CU は 256 個の LDEV を管理しています。

LUN

(Logical Unit Number)

論理ユニット番号です。オープンシステム用のボリュームに割り当てられたアドレスです。オープンシステム用のボリューム自体を指すこともあります。

LUN セキュリティ

LUN に設定するセキュリティです。LUN セキュリティを有効にすると、あらかじめ決めておいたホストだけがボリュームにアクセスできるようになります。

LUN パス、LU パス

オープンシステム用ホストとオープンシステム用ボリュームの間を結ぶデータ入出力経路です。

LUSE ボリューム

オープンシステム用のボリュームが複数連結して構成されている、1 つの大きな拡張ボリュームのことです。ボリュームを拡張することで、ポート当たりのボリューム数が制限されているホストからもアクセスできるようになります。

MPB1

VSP G1000 専用の MP ブレードです。

MPB2

VSP G1500 および VSP F1500 用の MP ブレードです。VSP G1000 にも搭載できます。

MP ブレード

(Micro Processor Blade)

チャンネルアダプタとディスクアダプタの制御、PCI-express インタフェースの制御、ローカルメモリの制御、およびイーサネットで SVP 間の通信を制御するプロセッサを含んだブレードです。データ入出力に関連するリソース (LDEV、外部ボリューム、ジャーナル) ごとに特定の MP ブレードを割り当てると、性能をチューニングできます。特定の MP ブレードを割り当てる方法と、ストレージシステムが自動的に選択した MP ブレードを割り当てる方法があります。MP ブレードに対して自動割り当ての設定を無効にすると、その MP ブレードがストレージシステムによって自動的にリソースに割り当てられることはないため、特定のリソース専用の MP ブレードとして使用できます。MPB1 と MPB2 の、2 種類の MP ブレードがあります。

MU

(Mirror Unit)

1 つのプライマリボリュームと 1 つのセカンダリボリュームを関連づける情報です。

MVS

(Multiple Virtual Storage)

IBM 社のメインフレームシステム用 OS です。

Open/MF コンシステンシーグループ

Open/MF コンシステンシー維持機能を使用した、コンシステンシーグループのことです。

Open/MF コンシステンシーグループ内の TrueCopy ペアおよび TrueCopy for Mainframe ペアを、同時に分割したり再同期したりできます。

Out-of-Band 方式

RAID Manager のコマンド実行方式の 1 つです。コマンドを実行すると、クライアントまたはサーバから LAN 経由で SVP 中にある仮想コマンドデバイスにコマンドが転送されます。仮想コマンドデバイスからストレージシステムに指示を出し、ストレージシステムで処理が実行されます。

PAV

IBM OS の機能で、一つのデバイスに対して複数の I/O 操作を平行して発行できるようにする機能です。VSP G1000, G1500 および VSP F1500 で Compatible PAV 機能を使用することにより、IBM OS から VSP G1000, G1500 および VSP F1500 上のデバイスに対してこの機能を使えるようになります。

PCB

(Printed Circuit Board)

プリント基盤です。このマニュアルでは、チャンネルアダプタやディスクアダプタなどのボードを指しています。

PPRC

(Peer-to-Peer Remote Copy)

IBM 社のリモートコピー機能です。

Quorum ディスク

パスやストレージシステムに障害が発生したときに、global-active device ペアのどちらのボリュームでサーバからの I/O を継続するのかを定めるために使われます。外部ストレージシステムに設置します。

RAID

(Redundant Array of Independent Disks)

独立したディスクを冗長的に配列して管理する技術です。

RAID Manager

コマンドインタフェースでストレージシステムを操作するためのプログラムです。

RCU Target ポート

Initiator ポートと接続します。RCU Target ポートは、ホストのポートとも通信できます。

RDEV

(Real Device)

IBM 用語です。DASD の実装置アドレスを意味します。z/VM 独自の管理方法に基づく概念のため、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 において対応する概念はありません。

Read Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。ホストがディスクから読み出そうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Read Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

Real Time OS

RISC プロセッサを制御する基本 OS で、主に、メインタスクや SVP 通信タスクのタスクスイッチを制御します。

SIM

(Service Information Message)

ストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検出したときに生成されるメッセージです。原因となるエラーを解決し、Storage Navigator 画面上で SIM が解決したことを報告することを、「SIM をコンプリートする」と言います。

SLU

(Subsidiary Logical Unit)

SCSI アーキテクチャモデルである Conglomerate LUN structure に使われる LU です。

SLU は実データを格納した LU であり、DP-VOL またはスナップショットデータ（あるいはスナップショットデータに割り当てられた仮想ボリューム）を SLU として使用できます。

ホストから SLU へのアクセスは、すべて ALU を介して行われます。

vSphere では、Virtual Volume (VVol) と呼ばれます。

SM

(Shared Memory)

詳しくは「共用メモリ」を参照してください。

SSID

ストレージシステムの ID です。ストレージシステムでは、搭載される LDEV のアドレスごと (64、128、256) に 1 つの SSID が設定されます。

SVP

(Service Processor)

ストレージシステムに内蔵されているコンピュータです。SVP は、保守員が障害情報を解析したり装置診断をするときに利用します。ユーザーは Storage Navigator を使用して SVP にアクセスし、ストレージシステムの設定や参照ができます。

T10 PI

(T10 Protection Information)

SCSI で定義された保証コード基準の一つです。T10 PI では、512 バイトごとに 8 バイトの保護情報 (PI) を追加して、データの検証に使用します。T10 PI にアプリケーションおよび OS を含めたデータ保護を実現する DIX (Data Integrity Extension) を組み合わせることで、アプリケーションからディスクドライブまでのデータ保護を実現します。

TSE-VOL

(Track Space - Efficient Volume)

DP-VOL 同様の仮想ボリュームですが、IBM 製品の FlashCopy、および Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE のターゲットボリュームとしてのみ使用できます。IBM ホストから認識できるよう互換を保持しています。DP-VOL とプールを共用するため、TSE-VOL を使用するためには、Compatible Software for IBM® FlashCopy® SE だけではなく、Dynamic Provisioning for Mainframe のライセンスもインストールする必要があります。

UUID

(User Definable LUN ID)

ホストから論理ボリュームを識別するために、ストレージシステム側で設定する任意の ID です。

Vary Offline

メインフレームシステム用ホストとオンライン接続しているデバイスを、オフライン状態に切り替える操作です。Vary Offline の操作をするには、メインフレームシステム用ホストからコマンドを実行します。

Vary Online

デバイスをメインフレームシステム用ホストとオンライン接続するための操作です。Vary Online の操作をするには、メインフレームシステム用ホストからコマンドを実行します。

VDEV

(Virtual Device)

IBM 用語です。DASD の仮想アドレスを意味します。z/VM 独自の管理方法に基づく概念のため、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 において対応する概念はありません。VSP G1000, G1500 および VSP F1500 における VDEV とは別の概念です。

VDEV

(Virtual Device)

パリティグループ内にある論理ボリュームのグループです。VDEV は固定サイズのボリューム (FV) と剰余ボリューム (フリースペース) から構成されます。VDEV 内に任意のサイズのボリューム (CV) を作成することもできます。

VLAN

(Virtual LAN)

スイッチの内部で複数のネットワークに分割する機能です (IEEE802.1Q 規定)。

VOLSER

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VSN とも呼びます。LDEV 番号や LUN とは無関係です。

VOS

(Virtual storage Operating System)

日立のメインフレームシステム用の OS です。

VSN

(Volume Serial Number)

個々のボリュームを識別するために割り当てられる番号です。VOLSER とも呼びます。

VSP Fx00

Virtual Storage Platform F400, F600, F800 の総称です。Storage Navigator の画面では、総称として「Fx00」と表示される場合があります。

VSP Gx00

Virtual Storage Platform G100, G200, G400, G600, G800 の総称です。Storage Navigator の画面では、総称として「Gx00」と表示される場合があります。

VTOC

(Volume Table of Contents)

ディスク上の複数データセットのアドレスや空き領域を管理するための情報を格納するディスク領域です。

Write Hit 率

ストレージシステムの性能を測る指標の1つです。ホストがディスクへ書き込もうとしていたデータが、どのくらいの頻度でキャッシュメモリに存在していたかを示します。単位はパーセントです。Write Hit 率が高くなるほど、ディスクとキャッシュメモリ間のデータ転送の回数が少なくなるため、処理速度は高くなります。

WWN

(World Wide Name)

ホストバスアダプタの ID です。ストレージ装置を識別するためのもので、実体は 16 桁の 16 進数です。

XRC

(eXtended Remote Copy)

IBM 社のリモートコピー機能です。

zHyperWrite 機能

IBM 社の DS シリーズ ディスクアレイ装置でサポートしている zHyperWrite の互換機能です。上位アプリケーションである DB2 のログを書き込むときに行われる二重化処理で、TrueCopy for Mainframe の更新コピーを使用して二重化処理を行うのではなく、ホストから TrueCopy for Mainframe のプライマリボリュームおよびセカンダリボリュームに対して書き込みを行います。zHyperWrite の詳細については、IBM のマニュアルを参照してください。

(ア行)

アクセス属性

ボリュームが読み書き可能になっているか (Read/Write)、読み取り専用になっているか (Read Only)、それとも読み書き禁止になっているか (Protect) どうかを示す属性です。

アクセスパス

ストレージシステム内におけるデータとコマンドの転送経路です。

エクステント

IBM 社のストレージシステム内で定義された論理デバイスは、ある一定のサイズに分割されて管理されます。この、分割された最小管理単位の名称です。

エクステントプール

エクステントを 1 個以上まとめた物理領域です。

エミュレーション

あるハードウェアまたはソフトウェアのシステムが、ほかのハードウェアまたはソフトウェアのシステムと同じ動作をすること（または同等に見えるようにすること）です。一般的には、過去に蓄積されたソフトウェアの資産を役立てるためにエミュレーションの技術が使われます。

(カ行)

外部ストレージシステム

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 に接続されているストレージシステムです。

外部パス

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 と外部ストレージシステムを接続するパスです。外部パスは、外部ボリュームを内部ボリュームとしてマッピングしたときに設定します。複数の外部パスを設定することで、障害やオンラインの保守作業にも対応できます。

外部ボリューム

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 のボリュームとしてマッピングされた、外部ストレージシステム内のボリュームです。

外部ボリュームグループ

マッピングされた外部ボリュームのグループです。外部ボリュームをマッピングするときに、ユーザが外部ボリュームを任意の外部ボリュームグループに登録します。外部ボリュームグループは、外部ボリュームを管理しやすくするためのグループで、パリティ情報は含みませんが、管理上はパリティグループと同じように取り扱います。

鍵管理サーバ

暗号化鍵を管理するサーバです。VSP G1000, G1500 および VSP F1500 では、暗号化鍵を管理するための規格である KMIP (Key Management Interoperability Protocol) に準じた鍵管理サーバに暗号化鍵をバックアップでき、また、鍵管理サーバにバックアップした暗号化鍵から暗号化鍵をリストアできます。

書き込み待ち率

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。キャッシュメモリに占める書き込み待ちデータの割合を示します。

仮想ボリューム

実体を持たない、仮想的なボリュームです。Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、または active flash for mainframe で使用する仮想ボリュームを DP-VOL と呼びます。Thin Image では、仮想ボリュームをセカンダリボリュームとして使用します。

監査ログ

ストレージシステムに対して行われた操作や、受け取ったコマンドの記録です。監査ログは、SVP から Storage Navigator 動作 PC にダウンロードしたり、FTP サーバや syslog サーバに転送したりできます。

キャッシュ

チャンネルとドライブの間にあるメモリです。中間バッファとしての役割があります。キャッシュメモリとも呼ばれます。

共用メモリ

キャッシュ上に論理的に存在するメモリです。ストレージシステムの共通情報や、キャッシュの管理情報 (ディレクトリ) などを記憶します。これらの情報を基に、ストレージシステムは排他制御を行います。また、差分テーブルの情報も共用メモリで管理されており、コピーペアを作成する場合に共用メモリを利用します。なお、共用メモリは 2 面管理になっていて、停電等の障害時にはバッテリーを利用して共用メモリの情報を SSD へ退避します。

形成コピー

ホスト I/O プロセスとは別に、プライマリボリュームとセカンダリボリュームを同期させるプロセスです。

更新コピー

形成コピー（または初期コピー）が完了したあとで、プライマリボリュームの更新内容をセカンダリボリュームにコピーして、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの同期を保持するコピー処理です。

交替パス

チャンネルプロセッサの故障などによって LUN パスが利用できなくなったときに、その LUN パスに代わってホスト I/O を引き継ぐ LUN パスです。

コピー系プログラムプロダクト

このストレージシステムに備わっているプログラムのうち、データをコピーするものを指します。ストレージシステム内のボリューム間でコピーするローカルコピーと、異なるストレージシステム間でコピーするリモートコピーがあります。

コマンドデバイス

ホストから RAID Manager コマンドまたは Business Continuity Manager コマンドを実行するために、ストレージシステムに設定する論理デバイスです。コマンドデバイスは、ホストから RAID Manager コマンドまたは Business Continuity Manager コマンドを受け取り、実行対象の論理デバイスに転送します。

RAID Manager 用のコマンドデバイスは Storage Navigator から、Business Continuity Manager 用のコマンドデバイスは Business Continuity Manager から設定します。

コマンドデバイスセキュリティ

コマンドデバイスに適用されるセキュリティです。

コンシステンシーグループ

コピー系プログラムプロダクトで作成したペアの集まりです。コンシステンシーグループ ID を指定すれば、コンシステンシーグループに属するすべてのペアに対して、データの整合性を保ちながら、特定の操作を同時に実行できます。

(サ行)

サイドファイル

非同期のリモートコピーで使用している内部のテーブルです。C/T グループ内のレコードの更新順序を正しく保つために使用されます。

サイドファイルキャッシュ

非同期コピーの処理時に生成されるレコードセットを格納する領域で、キャッシュ内に一時的に確保されます。

サブ画面

Java 実行環境 (JRE) で動作する画面で、メイン画面のメニューを選択して起動します。

差分テーブル

コピー系プログラムプロダクト、global-active device、および Volume Migration で共有するリソースです。Volume Migration 以外のプログラムプロダクトでは、ペアのプライマリボリューム（ソースボリューム）とセカンダリボリューム（ターゲットボリューム）のデータに差分があるかどうかを管理するために使用します。Volume Migration では、ボリュームの移動中に、ソースボリュームとターゲットボリュームの差分を管理するために使用します。

システムプール VOL

プールを構成するプール VOL のうち、1 つのプール VOL がシステムプール VOL として定義されます。システムプール VOL は、プールを作成したとき、またはシステムプール VOL を削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプール VOL で使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

システムプールボリューム

プールを構成するプールボリュームのうち、1 つのプールボリュームがシステムプールボリュームとして定義されます。システムプールボリュームは、プールを作成したとき、またはシステムプールボリュームを削除したときに、優先順位に従って自動的に設定されます。なお、システムプールボリュームで使用可能な容量は、管理領域の容量を差し引いた容量になります。管理領域とは、プールを使用するプログラムプロダクトの制御情報を格納する領域です。

ジャーナルボリューム

Universal Replicator と Universal Replicator for Mainframe の用語で、プライマリボリュームからセカンダリボリュームにコピーするデータを一時的に格納しておくためのボリュームのことです。ジャーナルボリュームには、プライマリボリュームと関連づけられているマスタジャーナルボリューム、およびセカンダリボリュームと関連づけられているリストアジャーナルボリュームとがあります。

シュレディング

ダミーデータを繰り返し上書きすることで、ボリューム内のデータを消去する処理です。

初期コピー

新規にコピーペアを作成すると、初期コピーが開始されます。初期コピーでは、プライマリボリュームのデータがすべて相手のセカンダリボリュームにコピーされます。初期コピー中も、ホストサーバからプライマリボリュームに対する Read/Write などの I/O 操作は続行できます。

シリアル番号

ストレージシステムに一意に付けられたシリアル番号（装置製番）です。

スナップショットグループ

Thin Image で作成した複数のペアの集まりです。複数のペアに対して同じ操作を実行できます。

スナップショットデータ

Thin Image の用語で、更新直前のプライマリボリュームのデータを指します。Thin Image を使用すると、プライマリボリュームに格納されているデータのうち、更新される部分の更新前のデータだけが、スナップショットデータとしてプールにコピーされます。

正 VOL、正ボリューム

詳しくは「プライマリボリューム」を参照してください。

正サイト

通常時に、業務（アプリケーション）を実行するサイトを指します。

セカンダリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー先のボリュームを指します。副ボリュームとも言います。なお、プライマリボリュームとペアを組んでいるボリュームをセカンダリ

ボリュームと呼びますが、Thin Image では、セカンダリボリューム（仮想ボリューム）ではなく、プールにデータがコピーされます。

センス情報

エラーの検出によってペアがサスペンドされた場合に、MCU または RCU が、適切なホストに送信する情報です。ユニットチェックの状況が含まれ、災害復旧に使用されます。

専用 DASD

IBM 用語です。z/VM 上の任意のゲスト OS のみ利用可能な DASD を意味します。z/VM 独自の管理方法に基づく概念のため、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 において対応する概念はありません。

ソースボリューム

Compatible FlashCopy[®]、および Volume Migration の用語で、Compatible FlashCopy[®] の場合はボリュームのコピー元となるボリュームを、Volume Migration の場合は別のパリティグループへと移動するボリュームを指します。

(タ行)

ターゲットボリューム

Compatible FlashCopy[®]、および Volume Migration の用語で、Compatible FlashCopy[®] の場合はボリュームのコピー先となるボリュームを、Volume Migration の場合はボリュームの移動先となる領域を指します。

ダンプツール

Storage Navigator 動作 PC 上で使用するツールです。障害が発生した場合は、SVP から Storage Navigator 動作 PC に障害解析用のダンプファイルをダウンロードできます。

チャンネルアダプタ

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、ホストコマンドを処理してデータ転送を制御します。チャンネルアダプタは、データリカバリ・再構築回路 (DRR) を内蔵しています。

チャンネルエクステンダ

遠隔地にあるメインフレームホストをストレージシステムと接続するために使われるハードウェアです。

重複排除用システムデータボリューム

同一プール内の重複データを検索するための検索テーブルを格納するボリュームです。プールに重複排除用システムデータボリュームを割り当てれば、重複排除が利用できます。

ディスクアダプタ

ストレージシステムに内蔵されているアダプタの一種で、キャッシュとドライブの間のデータ転送を制御します。ディスクアダプタは、データリカバリ・再構築回路 (DRR) を内蔵しています。

データリカバリ・再構築回路

RAID-5 または RAID-6 のパリティグループのパリティデータを生成するためのマイクロプロセッサです。ディスクアダプタに内蔵されています。

転送レート

ストレージシステムの性能を測る指標の 1 つです。1 秒間にディスクへ転送されたデータの大きさを示します。

同期コピー

ホストからプライマリボリュームに書き込みがあった場合に、リアルタイムにセカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。ボリューム単位のリアルタイムデータバックアップができます。優先度の高いデータのバックアップ、複写、および移動業務に適しています。

トポロジ

デバイスの接続形態です。Fabric、FC-AL、および Point-to-point の 3 種類があります。

(ナ行)

内部ボリューム

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 が管理するボリュームを指します。

(ハ行)

パリティグループ

同じ容量を持ち、1 つのデータグループとして扱われる一連のドライブを指します。パリティグループには、ユーザデータとパリティ情報の両方が格納されているため、そのグループ内の 1 つまたは複数のドライブが利用できない場合にも、ユーザデータにはアクセスできます。場合によっては、パリティグループを RAID グループ、ECC グループ、またはディスクアレイグループと呼ぶことがあります。

非対称アクセス

global-active device でのクロスパス構成など、サーバとストレージシステムを複数の交替パスで接続している場合で、ALUA が有効のときに、優先して I/O を受け付けるパスを定義する方法です。

非同期コピー

ホストから書き込み要求があった場合に、プライマリボリュームへの書き込み処理とは非同期に、セカンダリボリュームにデータを反映する方式のコピーです。複数のボリュームや複数のストレージシステムにわたる大量のデータに対して、災害リカバリを可能にします。

ピントラック

(pinned track)

物理ドライブ障害などによって読み込みや書き込みができないトラックです。固定トラックとも呼びます。

ファイバチャネル

光ケーブルまたは銅線ケーブルによるシリアル伝送です。ファイバチャネルで接続された RAID のディスクは、ホストからは SCSI のディスクとして認識されます。

ファイバチャネルアダプタ

(Fibre Channel Adapter)

ファイバチャネルを制御します。

ファイバチャネルオーバーサネット

詳しくは、「FCoE」を参照してください。

プール

プールボリューム（プール VOL）を登録する領域です。Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、Thin Image、active flash、および active flash for mainframe がプールを使用します。

プールボリューム、プール VOL

プールに登録されているボリュームです。Dynamic Provisioning、Dynamic Provisioning for Mainframe、Dynamic Tiering、Dynamic Tiering for Mainframe、active flash、および active flash for mainframe ではプールボリュームに通常のデータを格納し、Thin Image ではスナップショットデータをプールボリュームに格納します。

副 VOL、副ボリューム

詳しくは「セカンダリボリューム」を参照してください。

副サイト

主に障害時に、業務（アプリケーション）を正サイトから切り替えて実行するサイトを指します。

プライマリボリューム

ペアとして設定された 2 つのボリュームのうち、コピー元のボリュームを指します。

フラッシュメモリ

各プロセッサに搭載され、マイクロコードを格納している不揮発性のメモリです。

ブロック

ボリューム容量の単位の一つです。1 ブロックは 512 バイトです。

分散パリティグループ

複数のパリティグループを連結させた集合体です。分散パリティグループを利用すると、ボリュームが複数のドライブにわたるようになるので、データのアクセス（特にシーケンシャルアクセス）にかかる時間が短縮されます。

ペアテーブル

ペアまたは移動プランを管理するための制御情報を格納するテーブルです。

ページ

DP の領域を管理する単位です。Dynamic Provisioning の場合、1 ページは 42MB、Dynamic Provisioning for Mainframe の場合、1 ページは 38MB です。

ホストグループ

ストレージシステムの同じポートに接続し、同じプラットフォーム上で稼働しているホストの集まりのことです。あるホストからストレージシステムに接続するには、ホストをホストグループに登録し、ホストグループを LDEV に結び付けます。この結び付ける操作のことを、LUN パスを追加するとも呼びます。

ホストグループ 0（ゼロ）

「00」という番号が付いているホストグループを指します。

ホストバスアダプタ、HBA

(Host Bus Adapter)

オープンシステム用ホストに内蔵されているアダプタで、ホストとストレージシステムを接続するポートの役割を果たします。それぞれのホストバスアダプタには、16桁の16進数によるIDが付いています。ホストバスアダプタに付いているIDをWWN (Worldwide Name) と呼びます。

ホストモード

オープンシステム用ホストのプラットフォーム (通常は OS) を示すモードです。

(マ行)

マイグレーションボリューム

VSP などの異なる機種ストレージシステムからデータを移行させる場合に使用するボリュームです。

マッピング

VSP G1000, G1500 および VSP F1500 から外部ボリュームを操作するために必要な管理番号を、外部ボリュームに割り当てることです。

ミニディスク DASD

IBM 用語です。z/VM 上で定義される仮想 DASD を意味します。z/VM 独自の管理方法に基づく概念のため、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 において対応する概念はありません。

メイン画面

Storage Navigator にログイン後、最初に表示される画面です。

(ラ行)

リザーブボリューム

ShadowImage または ShadowImage for Mainframe のセカンダリボリュームに使用するために確保されているボリューム、または Volume Migration の移動プランの移動先として確保されているボリュームを指します。

リソースグループ

ストレージシステムのリソースを割り当てたグループを指します。リソースグループに割り当てられるリソースは、LDEV 番号、パリティグループ、外部ボリューム、ポートおよびホストグループ番号です。

リモートコマンドデバイス

外部ストレージシステムのコマンドデバイスを、VSP G1000, G1500 および VSP F1500 の内部ボリュームとしてマッピングしたものです。リモートコマンドデバイスに対して RAID Manager コマンドを発行すると、外部ストレージシステムのコマンドデバイスに RAID Manager コマンドを発行でき、外部ストレージシステムのペアなどを操作できます。

リモートストレージシステム

ローカルストレージシステムと接続しているストレージシステムを指します。

リモートパス

リモートコピー実行時に、遠隔地にあるストレージシステム同士を接続するパスです。

レコードセット

非同期コピーの更新コピーモードでは、正 VOL の更新情報と制御情報をキャッシュに保存します。これらの情報をレコードセットといいます。ホストの I/O 処理とは別に、RCU に送信されます。

レスポンスタイム

モニタリング期間内での平均の応答時間。または、エクスポートツールで指定した期間内でのサンプリング期間ごとの平均の応答時間。単位は、各モニタリング項目によって異なります。

ローカルストレージシステム

Storage Navigator 動作 PC を接続しているストレージシステムを指します。



索引

C

- CLPR 10
 - 削除 25
 - 作成 22
 - 編集 24
 - リソース移動 23
- CLPR ID 18
- CLPR 名 18

V

- Virtual Partition Manager
 - 操作 22

か

- 概要 9

き

- キャッシュ分割機能 10

す

- 推奨キャッシュ容量 14

と

- トラブルシューティング 27

は

- パリティグループ 10

